

第3部 年齢から見た事故

ここでは、年齢層別での比較や乳幼児、就学区分、成人、高齢者などの年齢区分ごとに事故の傾向や事故の要因等を取り上げています。

令和2年中の救急搬送人員を年齢層別に見ると、70代が22,000人、80代が33,000人を超え、多く救急搬送されています。

また、若い年代を見ると9歳以下が11,077人と多く救急搬送されています（図3-1）。

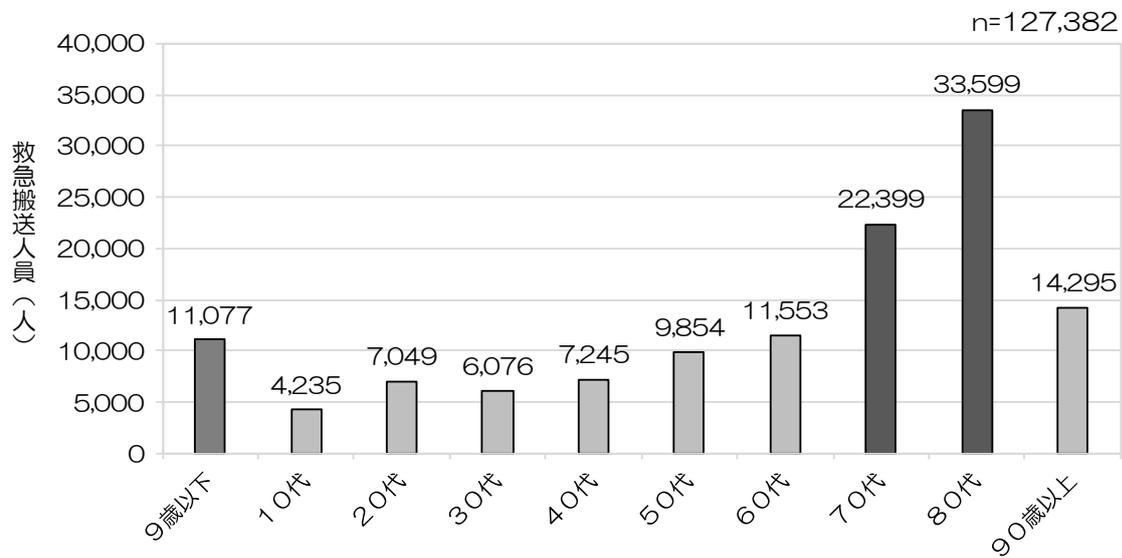


図3-1 年齢層別の救急搬送人員

1. 年齢区分から見た事故

(1) 0歳～5歳（乳幼児）の事故

① 0歳～5歳

ア 年別搬送人員

0歳から5歳までの乳幼児の事故で、平成28年から令和2年までの5年間に47,178人が救急搬送されています。令和2年は、昨年より減少し8,781人が救急搬送されています（図3-2）。

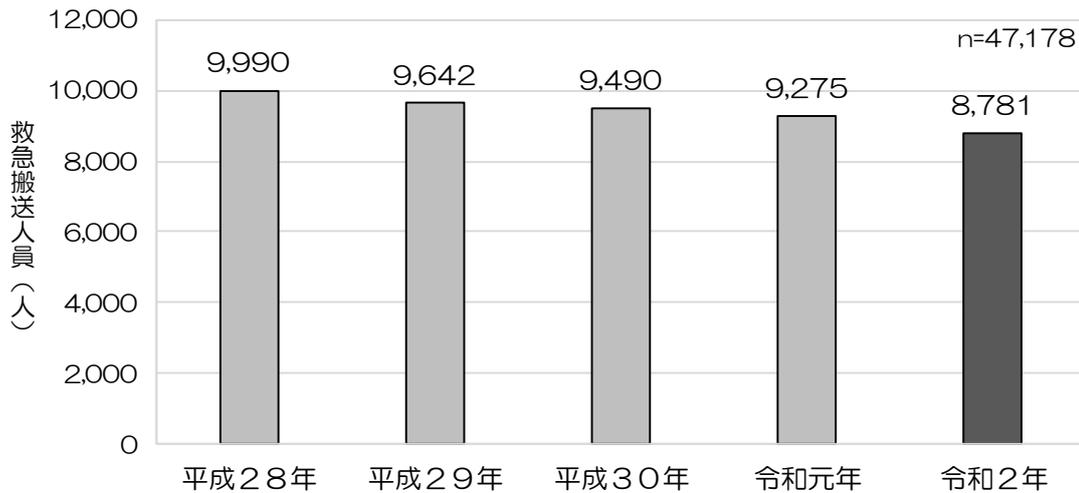


図3-2 年別の救急搬送人員

イ 年齢別搬送人員

年齢別では、1歳児の救急搬送人員が2,070人と最も多く、次いで2歳児が1,815人となっています（図3-3）。

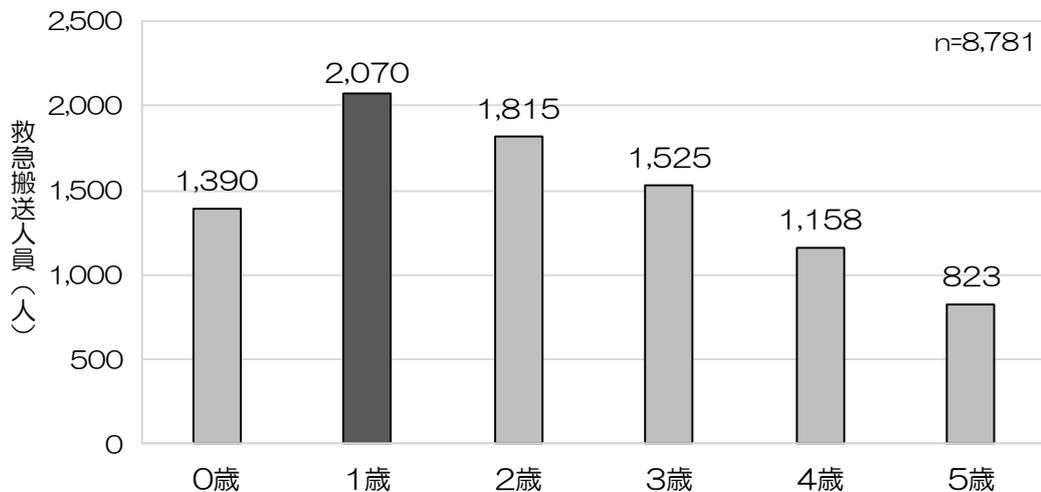


図3-3 年齢別の救急搬送人員

ウ 時間帯別搬送人員

時間帯別では、17時台から20時台までに多く救急搬送されています（図3-4）。

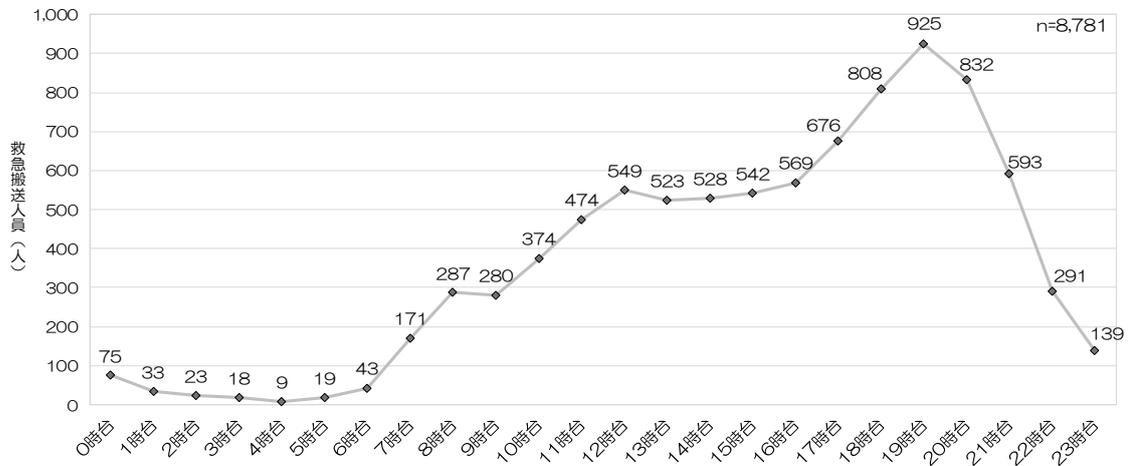


図3-4 時間帯別の救急搬送人員

エ 発生場所別搬送人員

発生場所別では、7割以上が住宅等居住場所となっています（図3-5）。

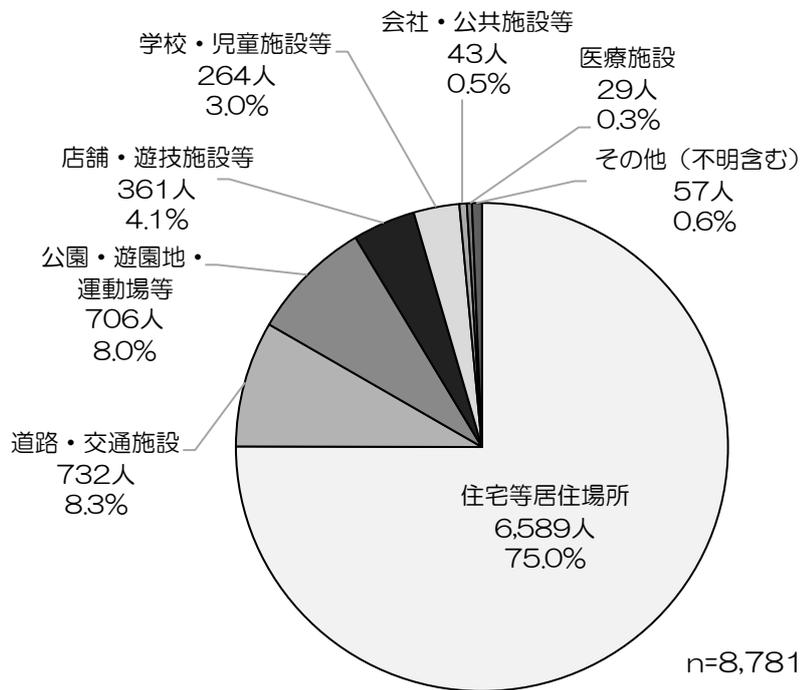
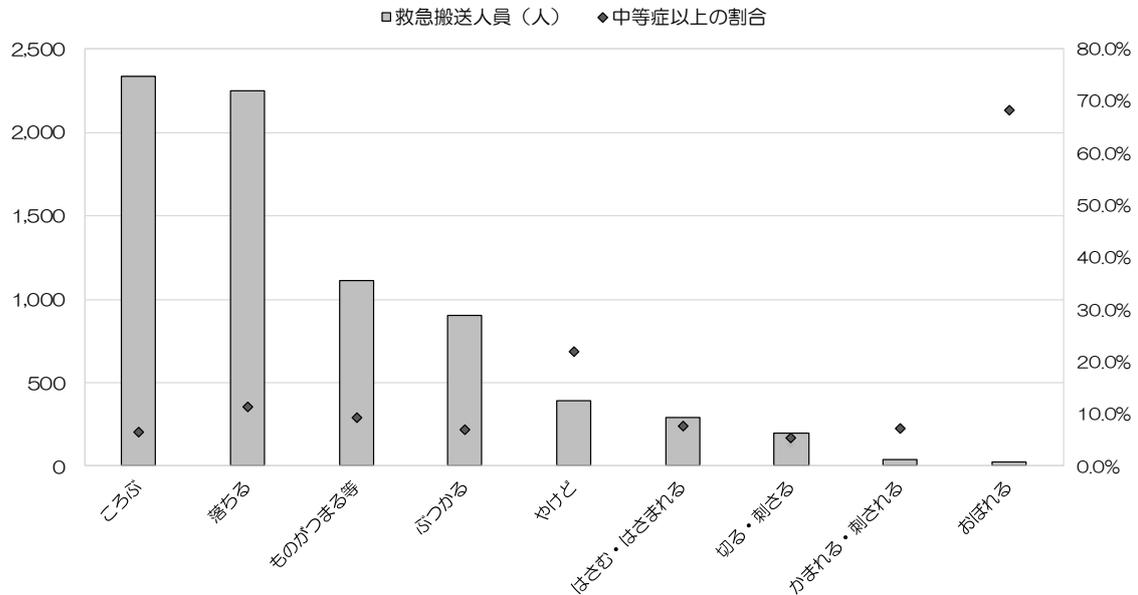


図3-5 発生場所別の救急搬送人員

オ 事故種別ごとの搬送人員

事故種別ごとに見ると、乳幼児の事故でもっとも多いのは「ころぶ」事故で、2,338人が救急搬送されています。初診時程度で中等症以上の割合が最も高いのは「おぼれる」事故で、約7割と突出して高くなっています。また、「やけど」でも2割以上が中等症以上と診断されています（図3-6）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ものがつまると等	ぶつかる	やけど	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	2,338人	2,248人	1,113人	904人	394人	289人	201人	42人	22人
中等症以上の割合	6.5%	11.5%	9.3%	7.1%	22.1%	7.6%	5.5%	7.1%	68.2%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-6 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

カ 年齢ごとに見る特徴的な事故の変化

乳幼児は日々成長し、昨日できなかったことが、今日できるようになっているかもしれません。子どもの発達を知り、その時期に起こりやすい事故を知り対策をとることで、重大な事故を防ぐことが出来ます。

0歳

ベッド（123人）や、人（84人）が抱いている状態から「落ちる」事故が多く発生しています。また、包み・袋（81人）、たばこ（61人）、その他の玩具（59人）を「誤って飲み込む」事故も多く発生しており、なんでも口に入れてしまう特徴が見てとれます。また、ポット・魔法瓶（28人）で「やけど」をする事故も発生しています。

1歳

一人歩きを始める頃で、階段（142人）や椅子（93人）などの家具から「落ちる」事故や、その他の家具（38人）や机・テーブル（37人）に起因する「ころぶ」事故が多く発生しています。

そのほかにも、その他の玩具（31人）やたばこ（28人）を「誤って飲み込む」事故や、手動ドア（47人）に「はさむ・はさまれる」事故、お茶・コーヒー類（39人）などによる「やけど」の事故など、様々な事故が発生しています。

2歳

階段（135人）や椅子（47人）などに起因する「落ちる」事故が多く発生しており、自転車の補助イス（31人）でも発生しています。「ころぶ」事故では、机・テーブル（41人）などの家具類で多く発生しています。また、「ぶつかる」事故、手動ドア（31人）に「はさむ・はさまれる」事故も多く発生しています。カップ麺（8人）や味噌汁・スープ（7人）に起因する「やけど」の事故も発生しており、注意が必要です。

3歳

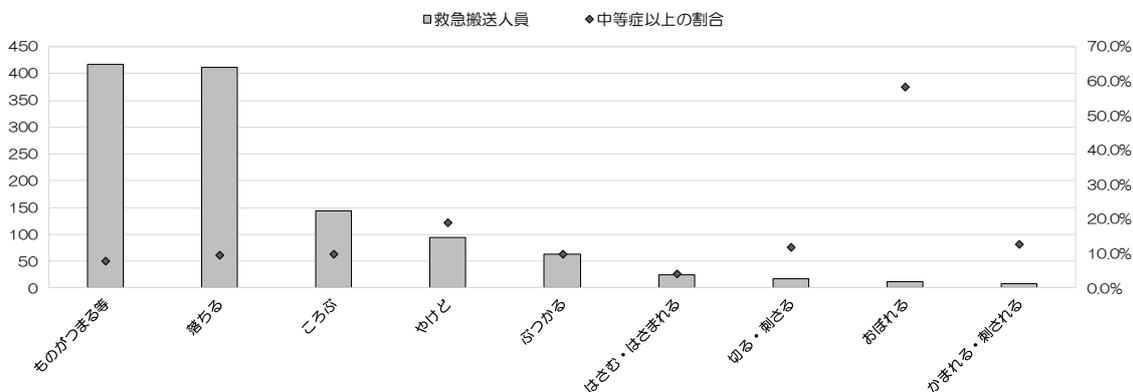
5歳

階段（76人）や机・テーブル（66人）で「ころぶ」事故が多く発生しています。また、2歳児と同じく、階段（140人）や椅子（90人）から「落ちる」事故も多く発生しています。その他の玩具（40人）などを「誤って飲み込む」事故や、ナイフ（23人）による「切る・刺さる」事故が発生しており、注意が必要です。

② 0歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

0歳では、「ものがつまる」事故で418人が救急搬送されています。「おぼれる」事故は、中等症以上となる割合が約6割と最も高くなっています(図3-7)。



事故種別	ものがつまる等	落ちる	ころぶ	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	おぼれる	かまれる・刺される
救急搬送人員	418人	412人	143人	95人	62人	25人	17人	12人	8人
中等症以上の割合	7.7%	9.5%	9.8%	18.9%	9.7%	4.0%	11.8%	58.3%	12.5%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-7 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因(上位5つ)

0歳では、ベッドから落ちる事故が最も多く、123人が救急搬送されています。「ものがつまる」等の事故ではお菓子の袋やペットボトルのラベルなどの「包み・袋」の誤飲による事故が多く発生しています(表1)。

表1 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ものがつまる等	落ちる	ころぶ	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	おぼれる	かまれる・刺される
1位	包み・袋 81人	ベッド 123人	ベビーカー 14人	ポット・魔法瓶 28人	机・テーブル 9人	手動ドア 5人	ハサミ・爪切り 歯ブラシ ガラス瓶 ナイフ	浴槽 11人	動物等 6人
2位	たばこ 61人	人 84人	椅子 9人	味噌汁・スープ 20人	人 7人	寝具類 4人		ビニールプール 1人	虫 2人
3位	その他の玩具 59人	階段 43人	段差 8人	お茶・コーヒー類 14人	ベッド 4人	椅子 その他の家具	各2人		
4位	異物 12人	ソファ 39人	机・テーブル 7人	熱湯 7人	椅子 蛇口	各2人			
5位	洗剤等 11人	椅子 28人	階段 6人	食器類 6人	各3人	その他 各1人		食器類 1人	

※その他の玩具とは、プラスチック製の玩具やフィギュア、シール等

※その他の家具とは、棚、引き出し

※その他とは、ベビーカー、カバン、冷蔵庫等

ウ 0歳の事故事例

【事例1 ソファから転落】

ソファの上で遊んでいたところ、目を離れたすきに床に転落した（11か月 重症）。

【事故防止ポイント】

ベッドやソファ、階段などから「落ちる」事故は、0歳児に多く発生しています。昨日までできなかった寝返りが、今日できるかもしれません。目を離すときはベビーベッドの柵を上げましょう。また、高い所に寝かせないようにしましょう。

階段の上下には、転落防止用の柵等をつけましょう。

【事例2 ラベルを誤って飲み込む】

ペットボトルのラベルをかじっており、その後嘔吐したがラベルが出てこなかった（9か月 中等症）。

【事故防止ポイント】

子どもが飲み込めそうなものが子どもの届くところないように、日頃から整理整頓をこころがけましょう。早い子では、5か月頃から「物をつかむ」、つかんだら「口に入れる」行動が見られます。乳幼児は、トイレットペーパーの芯（39mm）を通る大きさのものなら、口に入れてしまい飲み込む危険性があります。

【事例3 ビニールプールでおぼれる】

自宅でビニールプールで遊んでいたところ、座った姿勢から四つん這いになり、顔面が水没してしまった（9か月 中等症）。

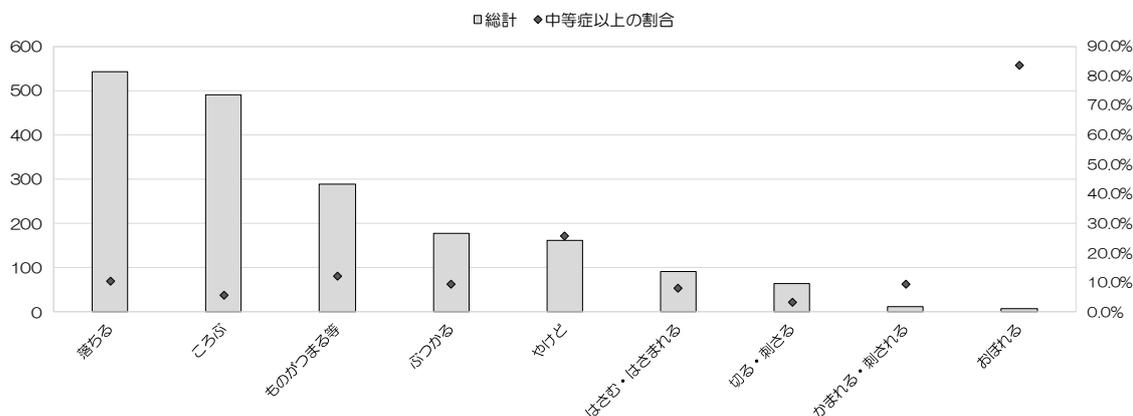
【事故防止ポイント】

おぼれの事故は重症化しやすいため、十分気を付けましょう。また、幼児は水深が浅くてもおぼれる可能性があるため、わずかな時間でも目を離さないようにしましょう。

③ 1歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

1歳では、歩く、走る、といった行動ができるようになる時期なので、0歳に比べ、「落ちる」や「ころぶ」事故が多くなります。「おぼれる」事故は、中等症以上となる割合が最も高く、「やけど」事故でも2割以上が中等症以上と診断されています（図3-8）。



事故種別	落ちる	ころぶ	ものがつまる等	ぶつかる	やけど	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	543人	490人	289人	176人	160人	90人	64人	11人	6人
中等症以上の割合	10.1%	5.3%	11.8%	9.1%	25.6%	7.8%	3.1%	9.1%	83.3%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-8 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

1歳では、階段から「落ちる」事故が多く発生しています。また、手動ドアに「はさむ・はさまれる」事故も多く発生しています（表2）。

表2 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	落ちる	ころぶ	ものがつまる等	ぶつかる	やけど	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
1位	階段	その他の家具	その他の玩具	机・テーブル	お茶・コーヒー類	手動ドア	歯ブラシ	動物等	浴槽
	142人	38人	31人	41人	39人	47人	16人	10人	5人
2位	椅子	机・テーブル	たばこ	ベッド	味噌汁・スープ	エレベーター	ナイフ	虫	ビニールプール
	93人	37人	28人	20人	29人	8人	11人	1人	1人
3位	ベッド	椅子	野菜・果物	その他の家具	ポット・魔法瓶	椅子	ハサミ・爪切り		
	51人	26人	20人	13人	25人	5人	8人		
4位	ソファ	階段	電池 薬剤等	人	食器類	自転車 その他の家具	筆記具		
	38人	16人		11人	13人		4人		
5位	自転車の補助イス	ベビーカー	各18人	手動ドア	熱湯	各4人	箸・ハンガー		
	37人	15人		10人	12人		各3人		

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、ラック等

「ぶつかる」におけるその他の家具とは、流し台、タンス、鏡等

「はさむ・はさまれる」におけるその他の家具とは、タンス、ドレッサー等

※その他の玩具とは、プラスチック製の玩具、シール、マグネット等

ウ 1歳の事事故事例

【事例1 椅子から落ちる】

自宅で椅子の上に立ち上がっていたところ、バランスを崩して落下し、顔面を受傷した（1歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

1歳児は0歳児と比べ、活発に動くようになります。普段から目を離さないよう注意しましょう。また、椅子などに座らせる時は、チェアベルト等を活用し、大きな事故にならないように工夫しましょう。

【事例2 薬の誤飲】

目を離している間に、置いてあった親の処方薬を子どもが誤飲した（1歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

医薬品は、子供の手の届くところに置かないようにしましょう。

医薬品は、薬理作用があるため、保管や管理には細心の注意を払いましょう。

シロップ等、子供が飲みやすいように味付けしてあるものは、冷蔵庫に入れておいても、自ら取り出して飲んでしまうことがあるため、保管・管理には十分注意しましょう。

【事例3 歯ブラシが刺さった事故】

歯ブラシをくわえて台の上に上がろうとしたところ、前のめりに転倒し喉に歯ブラシが刺さった（1歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

歯ブラシを口に入れたまま、歩いたり走ったりさせないようにしましょう。過去には口腔内に刺さる事例も発生しています。

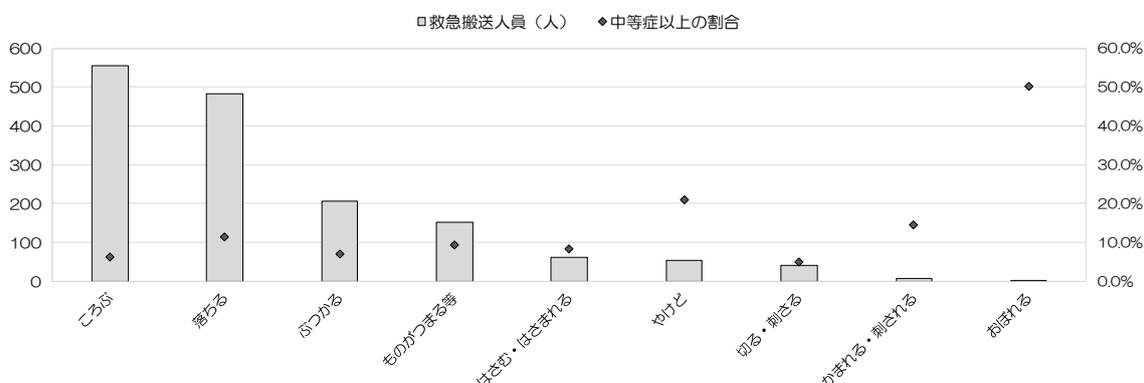
不安定な場所で歯みがきをしていて、転落した事例もあることから、椅子や踏み台等に乗った状態で歯みがきをさせないようにしましょう。

歯みがき中に人や物と接触し、受傷するケースも多いため、歯みがき中は保護者が付き添い、周囲にも注意を払いましょう。

④ 2歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

2歳では、「ころぶ」事故、「落ちる」事故に次いで、「ぶつかる」事故が多く発生しています。「おぼれる」事故では5割が中等症以上と診断されています(図3-9)。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	555人	482人	205人	151人	61人	53人	41人	7人	2人
中等症以上の割合	6.1%	11.4%	6.8%	9.3%	8.2%	20.8%	4.9%	14.3%	50.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-9 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因(上位5つ)

2歳では、階段から「落ちる」事故が多く発生しています。また、運動機能が発達し、自由に動き回ることができるようになってくるため、家の中を走り回って家具等に「ぶつかる」事故も発生しています(表3)。

表3 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
1位	机・テーブル 41人	階段 135人	机・テーブル 37人	その他の玩具 21人	手動ドア 31人	カップ種 8人	歯ブラシ 13人	虫動物等	浴槽 2人
2位	その他の家具 39人	椅子 47人	その他の家具 22人	薬剤等 17人	エレベーター 鉄道車両の戸袋 自転車 各5人	味噌汁・スープ 7人	ナイフ 10人	各3人	
3位	階段 31人	自転車の補助イス 31人	人 15人	魚等の骨 11人		ポット・魔法瓶 食器類 お茶・コーヒー類	ハサミ・爪切り 7人	不明 1人	
4位	椅子 26人	ベッド 30人	ぶらんこ 壁・天井 各12人	ビー玉類 9人			その他の家具 3人		
5位	自転車 23人	滑り台 29人		アメ玉類 8人	窓・柵 4人	各6人	筆記具 2人		

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、キッチンカウンター等

「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、引き出し等

「切る・刺さる」におけるその他の家具とは、割れた鏡、アクセサリーボックスのガラス部分等

※その他の玩具とは、ブロック型の玩具、シール、サイコロ等

ウ 2歳の事事故事例

【事例1 椅子から落ちる事故】

子ども用の椅子の背もたれに座って遊んでいたところ、バランスを崩して転落した（2歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

ベランダや窓の他に、椅子などの家具からの墜落・転落事故も発生しています。高所からの墜落は重症化しやすいため十分注意しましょう。

【事例2 ボタン電池の誤飲】

子どものそばにあった未開封のボタン電池が開封され、中身がなくなっていることに親が気付いた（2歳 軽症）。

【事故防止ポイント】

子どもが飲み込めそうなものは、子どもの手の届くところに置かないようにしましょう。

ボタン電池は放電能力が高いため、非常に短時間で消化管壁に潰瘍を作ります。

【事例3 手動ドアにはさまれる事故】

自分でベランダの扉を閉めようとしたところ、指を挟みこんでしまい受傷した（2歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

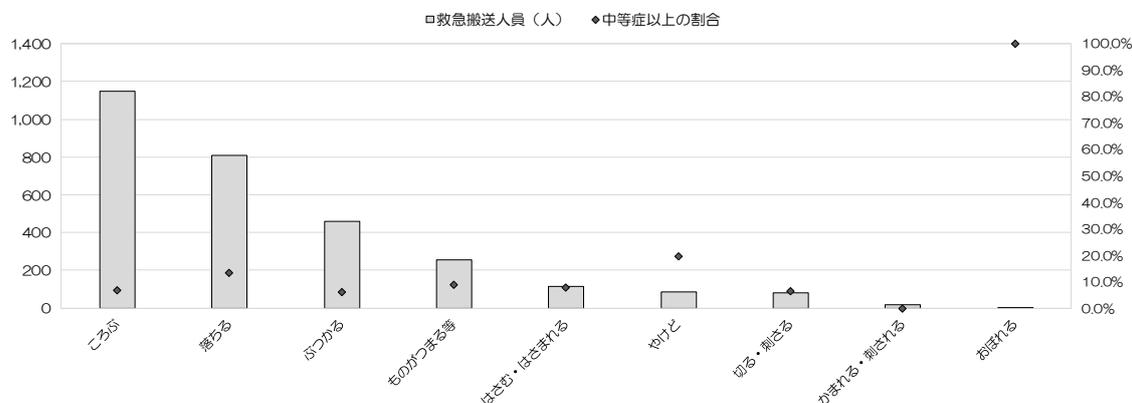
子供の「はさまれ」の原因で一番多いのは「手動ドア」です。子供の手や足は大人より小さく、狭い隙間でも入ってしまいます。指の切断に至ることもあるのでドアの開閉時は、注意しましょう。

ドアの蝶番側は、指はさみを防止するグッズなどでカバーすることも事故防止に効果的です。

⑤ 3歳～5歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

3歳から5歳まででは、「ころぶ」事故が最も多くなっています。「おぼれる」事故は全てが中等症以上となっており、「落ちる」事故と「やけど」の事故は、1割以上が中等症以上と診断されています（図3-10）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつままる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺さる	おぼれる
救急搬送人員	1,150人	811人	461人	255人	113人	86人	79人	16人	2人
中等症以上の割合	6.8%	13.4%	6.1%	9.0%	8.0%	19.8%	6.3%	0.0%	100.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-10 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

3歳から5歳まででは、階段から「落ちる」事故が多く発生しています。また、机・テーブルで「ぶつかる」事故も多く発生しています（表4）。

表4 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつままる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺さる	おぼれる
1位	階段	階段	机・テーブル	その他の玩具	手動ドア	カップ類	ナイフ	動物等	浴槽
	76人	140人	72人	40人	37人	19人	23人	9人	1人
2位	机・テーブル	椅子	その他の家具	ビー玉類	自転車	味噌汁・スープ	ハサミ・爪切り 歯ブラシ	虫	海
	66人	90人	41人	28人	25人	13人		7人	1人
3位	その他の家具	ソファ	人	魚等の骨	自動車のドア その他の玩具	メン類	各10人		
	63人	57人	31人	25人		10人			
4位	椅子	ベッド	手動ドア	アメ玉類	各5人	お茶・コーヒー類	針・ヘアピン・釘等		
	52人	55人	30人	23人		9人	6人		
5位	自転車	自転車の補助イス	壁・天井	食物	椅子	鍋	筆記具		
	48人	50人	25人	11人	3人	8人	3人		

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、洗面台、キッチンカウンター等

※「ものがつままる等」におけるその他の玩具とは、ブロック型の玩具、マグネット、遊戯用コイン等

「はさむ・はさまれる」におけるその他の玩具とは、万華鏡、モデルガン、電車のレール等

ウ 3歳～5歳の事故事例

【事例1 ころぶ事故】

幼稚園の園庭で遊戯中に転倒し、石段に頭部をぶつけ受傷した(4歳 中等症)。

【事故防止ポイント】

3歳になると運動能力も高くなり行動範囲が広がっています。危険や安全の判断がまだ十分にできていませんので、危険な行動は繰り返し教えてあげましょう。

【事例2 遊具からの墜落・転落】

公園のジャングルジムで遊んでいて、約2m下の地面に落ちて受傷した(3歳 中等症)。

【事故防止ポイント】

墜落事故は重大事故につながる可能性が高い事故の一つです。

遊具からの転落事故の他、窓やベランダに置いてあったイスや室外機にのぼり、誤って墜落する事故も発生しています。

ベランダや窓の近くには子供がのぼれるものを置かないようにしましょう。

【事例3 カップ麺によるやけど】

机の上に置いてあったカップ麺を引き寄せようとして倒してしまい、大腿部にスープがかかり受傷した(4歳 中等症)。

【事故防止ポイント】

やけどの恐れのあるものは、子供の手の届くところに置かないようにしましょう。

テーブル上に置かれた熱いものが入った容器を乳幼児が引き寄せ、やけどを負う事故が多く発生しています。テーブルの隅など、乳幼児の手の届きやすいところに熱いものは絶対に置かないようにしましょう。

(2) 6歳～12歳（小学生）の事故

ア 年別搬送人員

小学生の年代では、令和2年中に3,567人が救急搬送されています（図3-11）。

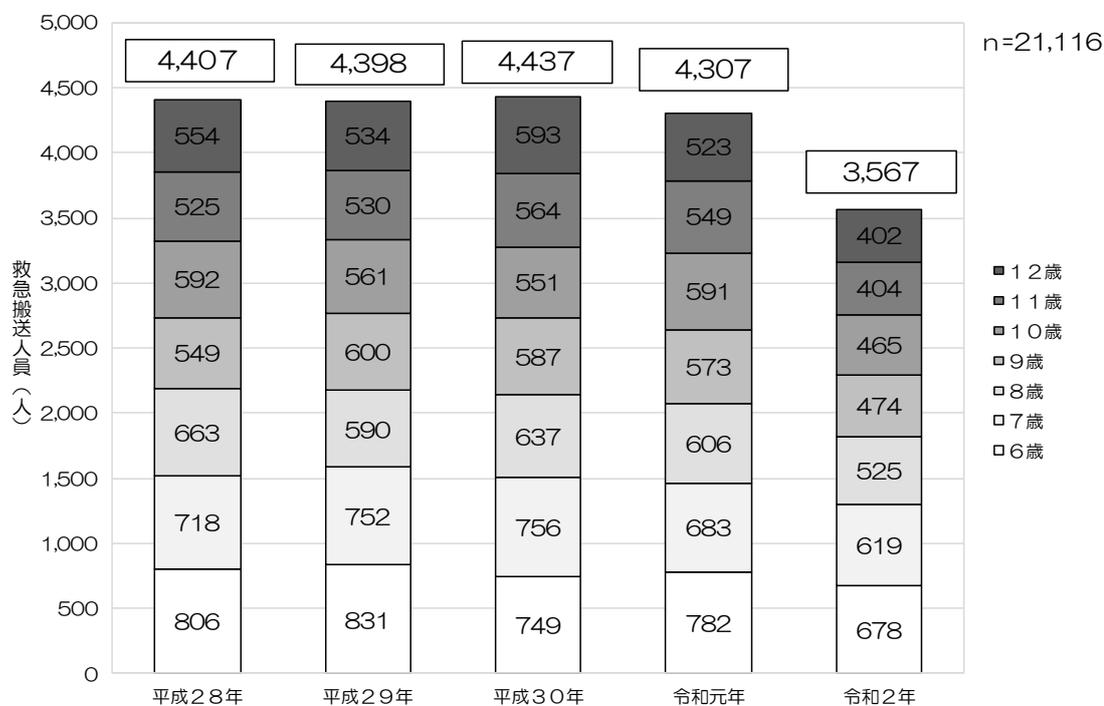


図3-11 年別の救急搬送人員（6歳～12歳）

イ 月別搬送人員

月別では、8月から11月までに多く搬送されています（図3-12）。

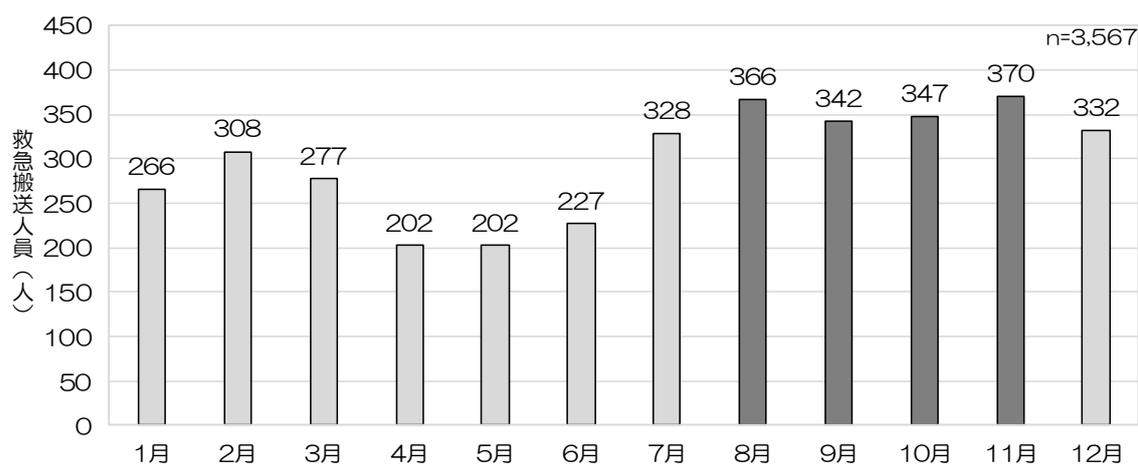


図3-12 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所のほかに公園・遊園地・運動場等が多くなっています。また、学校・児童施設等での事故も多く発生しています（図3-13）。

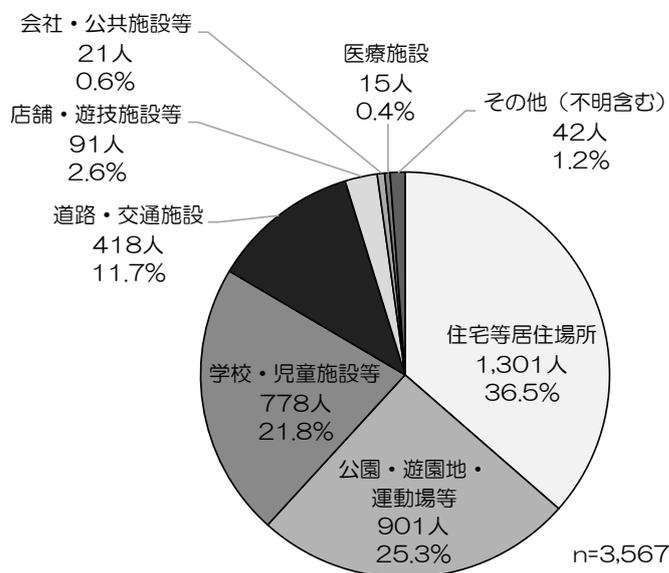
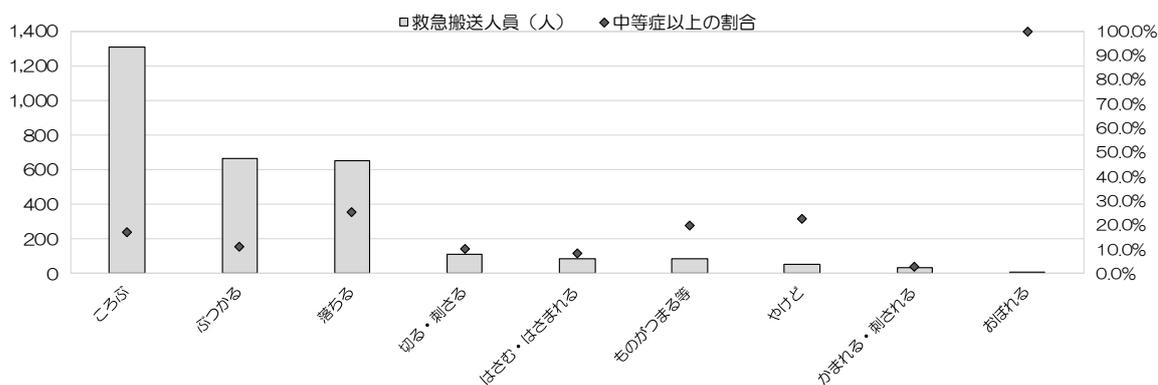


図3-13 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

6歳から12歳まででは、「ころぶ」事故が多く発生しています。「おぼれる」事故ではすべてが中等症以上となっています。また、「落ちる」や「やけど」事故は2割以上が中等症以上となっています（図3-14）。



事故種別	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつまる等	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	1307人	662人	648人	111人	84人	81人	53人	34人	3人
中等症以上の割合	17.1%	11.0%	25.5%	9.9%	8.3%	19.8%	22.6%	2.9%	100.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-14 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

6歳から12歳まででは、スケートボードで「ころぶ」事故が多く発生しています。子ども同士で「ぶつかる」事故も多く発生しています（表5）。

表5 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつまる等	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
1位	スケートボード	人	階段 滑り台	ナイフ	手動ドア	魚等の骨	カップ種	動物等	浴槽
	91人	134人		23人	18人	13人	19人	20人	2人
2位	階段	ボール	各65人	手動ドア	自転車	その他の玩具	鍋	虫	プール
	74人	54人		17人	15人	10人	5人	14人	1人
3位	自転車	手動ドア 柱	雲梯	針・釘等	人	アメ玉類	ポット・魔法瓶 お茶 熱湯		
	36人		54人	10人	8人	7人			
4位	机・テーブル	各30人	植物	ミシン（ミシン針含む）	その他の家具 植物	洗剤等 菓子			
	33人		47人	8人					
5位	その他の家具	壁・天井	ぶらんこ	はさみ	各5人	各4人		各4人	
	31人	29人	38人	7人					

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

「はさむ・はさまれる」におけるその他の家具とは、棚、タンス、ロッカー等

※その他の玩具とは、ブロック型の玩具、マグネット、メダル等

カ 6歳～12歳の事故事例

【事例1 高所から落ちる】

友達と野球グラウンドの防護ネットによじ登って遊んでいたところ墜落し、受傷した（12歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

高所からの墜落は、生命に危険を及ぼす重大な事故となることから、保護者等は、危険性を子どもに教え、理解させましょう。

小学生の年代は、運動能力の発達に加え、身長、体重、運動量、俊敏性、冒険心の増大が事故につながっていると考えられます。危険が予測される行動も多く見られることから、安全教育による事故防止も不可欠です。



(3) 13歳～18歳（中学生・高校生）の事故

ア 年別搬送人員

令和2年中は、2,391人が救急搬送されています（図3-15）。

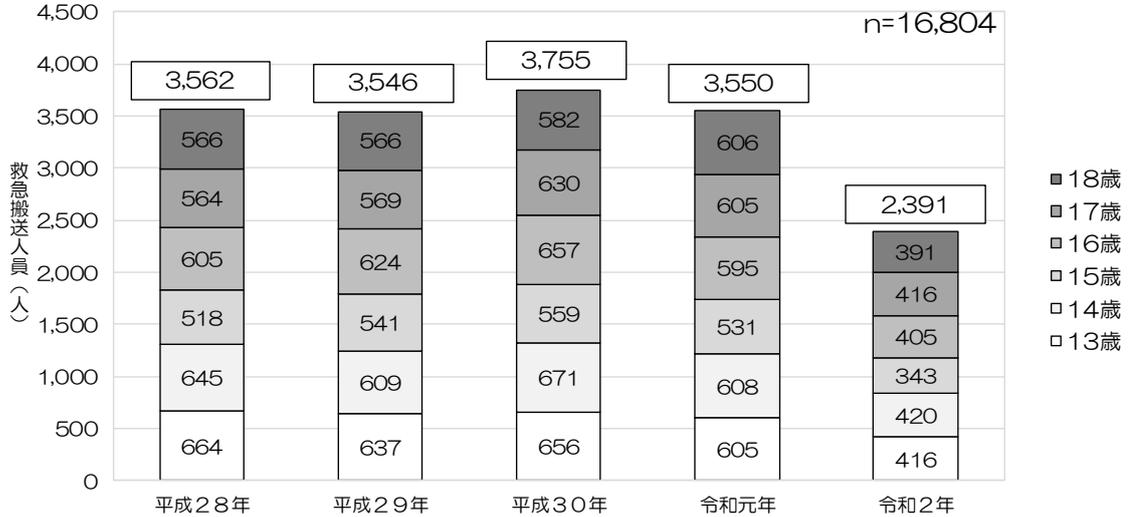


図3-15 年別の救急搬送人員（13歳～18歳）

イ 月別搬送人員

月別に見ると、8月が最も多く、次いで9月に多く搬送されています（図3-16）。

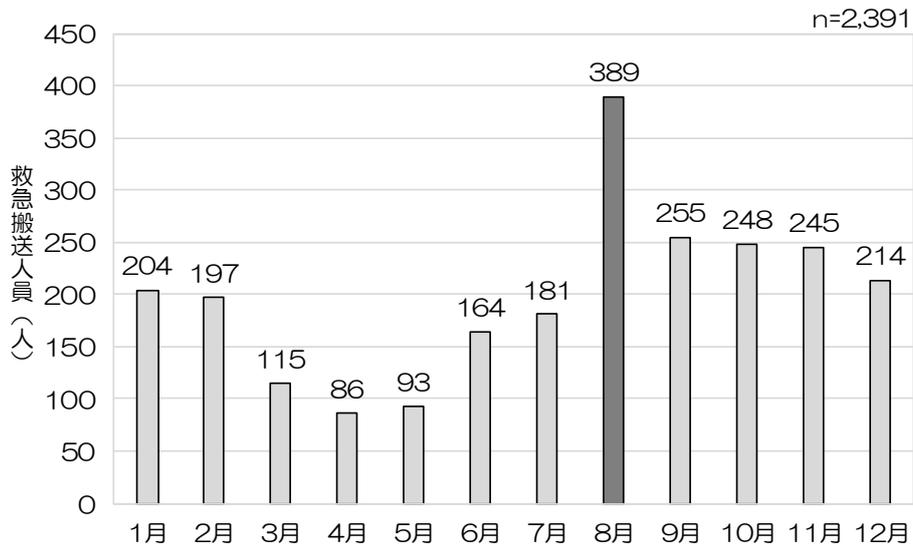


図3-16 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

学校・児童施設等が最も多く、次いで住宅等居住場所が多くなっています（図3-17）。

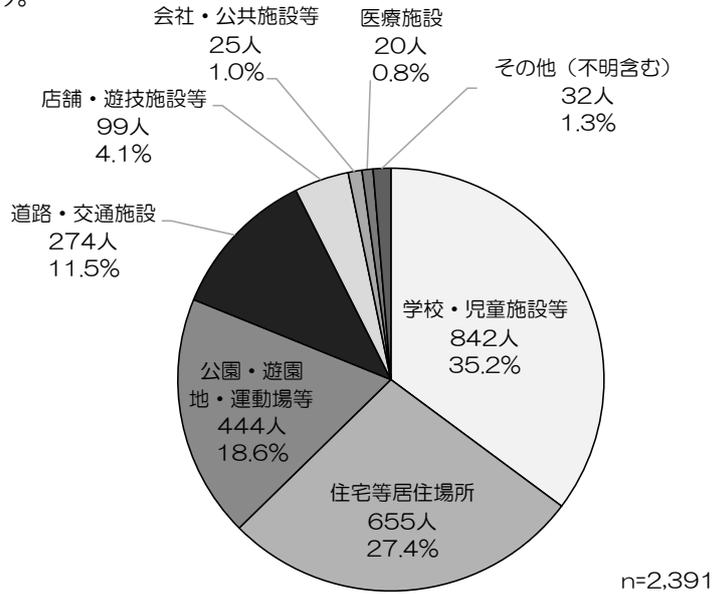
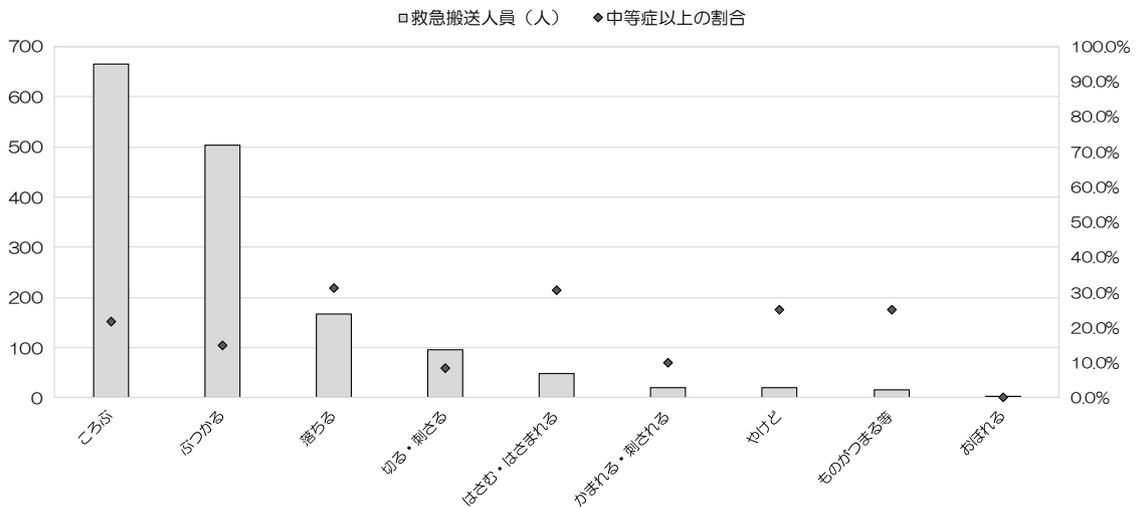


図3-17 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

13歳から18歳まででは、事故種別ごとに見ると、「ころぶ」事故が最も多くなっています（図3-18）。



事故種別	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	やけど	ものがつまる等	おぼれる
救急搬送人員	665人	503人	166人	96人	49人	20人	20人	16人	1人
中等症以上の割合	21.8%	14.9%	31.3%	8.3%	30.6%	100%	25.0%	25.0%	0.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-18 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

13歳から18歳まででは、人と「ぶつかる」事故が多く発生しています。また、スポーツでボールにぶつかる等の事故が多くなっています（表6）。

表6 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	やけど	ものがつまる等	おぼれる
1位	スケートボード 45人	人 155人	階段 73人	ナイフ 36人	自転車 4人	動物等 11人	熱湯 3人	野菜・果物 食物	河川 1人
2位	階段 44人	ボール 126人	バランダ 7人	食器類 12人	手動ドア 人	虫 9人	鍋 お茶・コーヒー類 カップ麺 味噌汁・スープ	各3人	
3位	自転車 12人	手動ドア 20人	窓・サッシ 5人	手動ドア 11人	各3人			その他の玩具 2人	
4位	段差 10人	壁・天井 16人	フェンス・柵・塀 4人	窓・サッシ 5人	パワーショベル・ トラレーニング マシン		各2人	アメ玉 タバコ 硬貨等	
5位	壁・天井 7人	その他の家具 12人	エスカレーター 脚立・踏み台 各3人	針・はさみ ・ガラス瓶 各3人	各2人			各1人	

※その他の家具とは、ロッカー、吊り戸棚、カーテンレール等

※その他の玩具とは、ブロック型の玩具、スライム

カ 13歳～18歳の事故事例

【事例1 人とぶつかる】

バスケットボールの試合中に、対戦相手と接触して転倒し受傷した（15歳 中等症）。

【事例2 跳び箱から落ちる】

体育の授業中に跳び箱を飛んだところ、バランスを崩して手から着地してしまい受傷した（14歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

中学生、高校生の年代では、運動中の事故が多く発生しています。

ウォーミングアップやストレッチは入念に行い、けがの予防に努めましょう。

指導者や保護者等は、普段の練習や競技の前には事故防止の注意喚起を行うとともに、不測の事態に備え、応急手当、AED（自動体外式除細動器）の使用方法等を身につけましょう。

(4) 19歳～64歳の事故

ア 年別搬送人員

19歳から64歳まででは、令和2年中に35,936人が救急搬送されています（図3-19）。

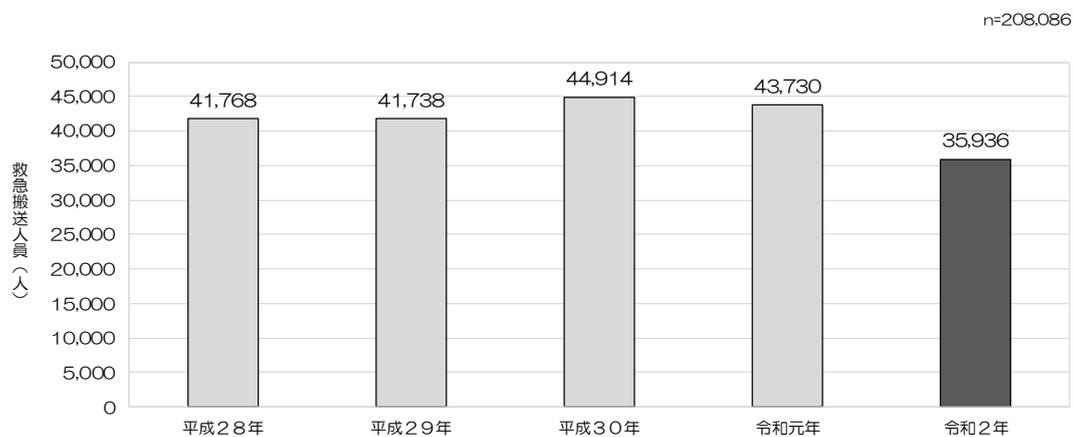


図3-19 年別の救急搬送人員

イ 月別搬送人員

令和2年を月別に見ると、8月に最も多く搬送され、次いで1月が多くなっています（図3-20）。

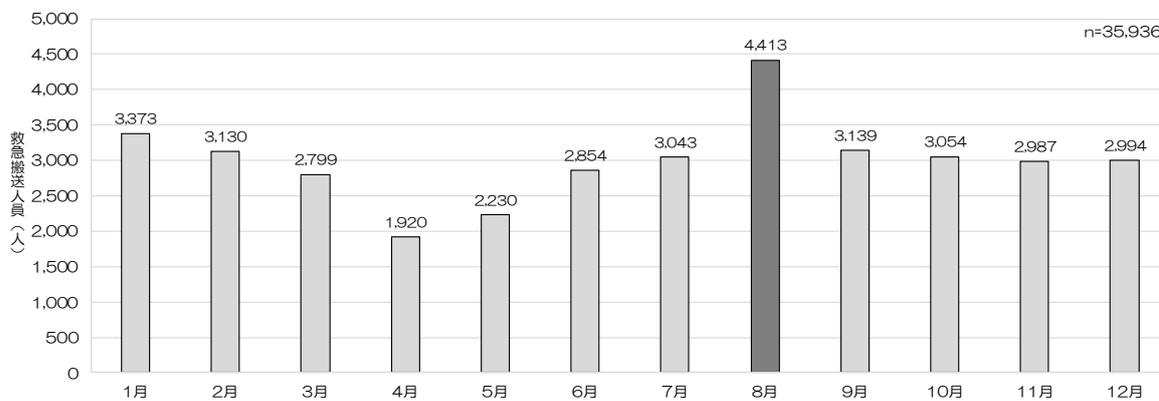


図3-20 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所、道路・交通施設での事故が多く発生しています（図 3-21）。

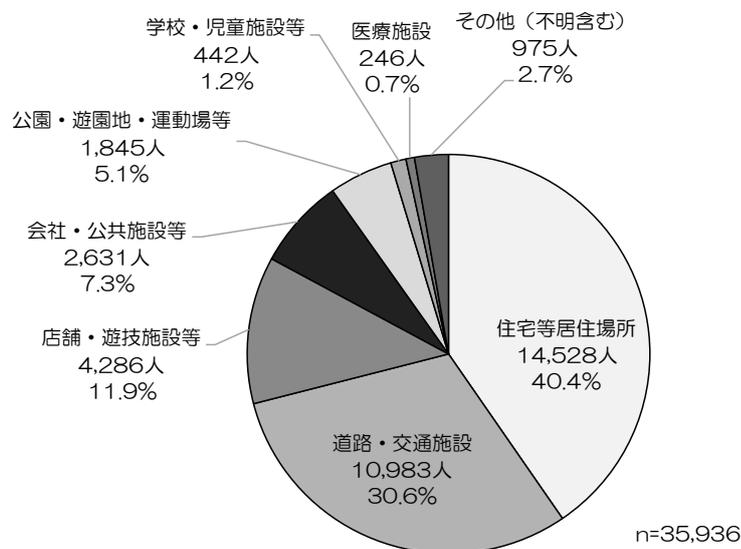
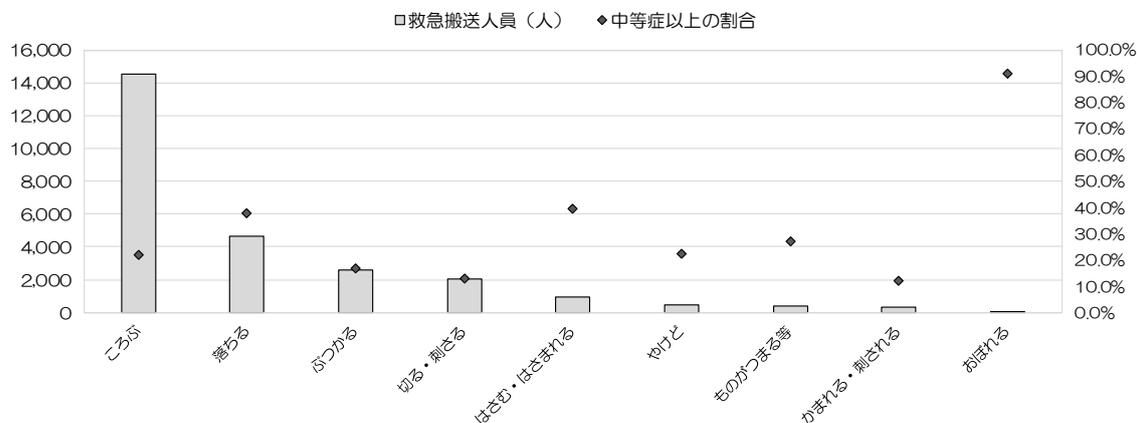


図 3-21 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

「ころぶ」事故が最も多く発生しています。また、「おぼれる」事故は中等症以上の割合が最も高く、「落ちる」事故、「はさむ・はさまれる」事故の約4割が中等症以上となっています（図 3-22）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	やけど	ものがつまる等	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	14,511人	4,639人	2,599人	2,012人	930人	459人	418人	309人	54人
中等症以上の割合	21.8%	37.6%	16.6%	12.8%	39.5%	22.0%	26.8%	12.0%	90.7%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図 3-22 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

19歳から64歳まででは、「ころぶ」事故、「落ちる」事故ともに「階段」での事故が最も多く発生しています（表7）。

表7 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	やけど	ものがつまる等	かまれる・刺される	おぼれる
1位	階段	階段	人	ナイフ	自動車	天ぷら油	肉	動物等	浴槽
	1,215人	2,357人	313人	818人	71人	75人	45人	207人	27人
2位	段差	脚立・踏み台	壁・天井	食器類	手動ドア	熱湯	食物	虫	河川
	524人	344人	164人	220人	66人	63人	44人	97人	23人
3位	自転車	椅子	ボール	スライサー	その他の機械	鍋	洗剤等	魚貝類	プール池
	452人	166人	137人	118人	50人	55人	40人	1人	
4位	エスカレーター	軌道敷	手動ドア	電気のかぎり	フォークリフト	ポット・魔法瓶	入れ歯によるもの		各1人
	188人	133人	133人	72人	37人	46人	28人		
5位	椅子	自動車	その他の家具	はさみ・爪切り	建材	味噌汁・スープ	包み・袋		
	174人	129人	129人	51人	34人	38人	27人		

※その他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

※その他の機械とは、プレス機、ローラー、ファンベルト等

カ 19歳～64歳の事故事例

【事例1 ホームから落ちる】

飲酒後、駅のホーム上を歩行していた際に、軌道敷に墜落し頭部を受傷した（30代 中等症）。

【事故防止ポイント】

飲酒後や歩きスマホにより、駅のホームから墜落する事故が多く発生しています。ホームの線路側を歩かないようにし墜落防止をしましょう。

【事例2 機械に指をはさむ】

ゴミの分別作業中に、ベルトコンベヤーに手をはさまれ受傷した（60代 中等症）。

【事故防止ポイント】

機械によるはさむ・はさまれる事故は重症化しやすいことを認識しましょう。機械を稼働させたまま詰まりを除去しようとして受傷する事故も発生しています。機械の点検、掃除、修理をする場合には、機械の電源を切り、コンセントを抜くなど、誤って電源が入ることがないことを確認してから作業しましょう。

(5) 65歳以上（高齢者）の事故

① 65歳以上（高齢者）

ア 年別搬送人員

高齢者の事故は増加傾向にあります。令和2年中の救急搬送人員は76,707人で平成28年と比較すると4,509人増加しています（図3-23）。

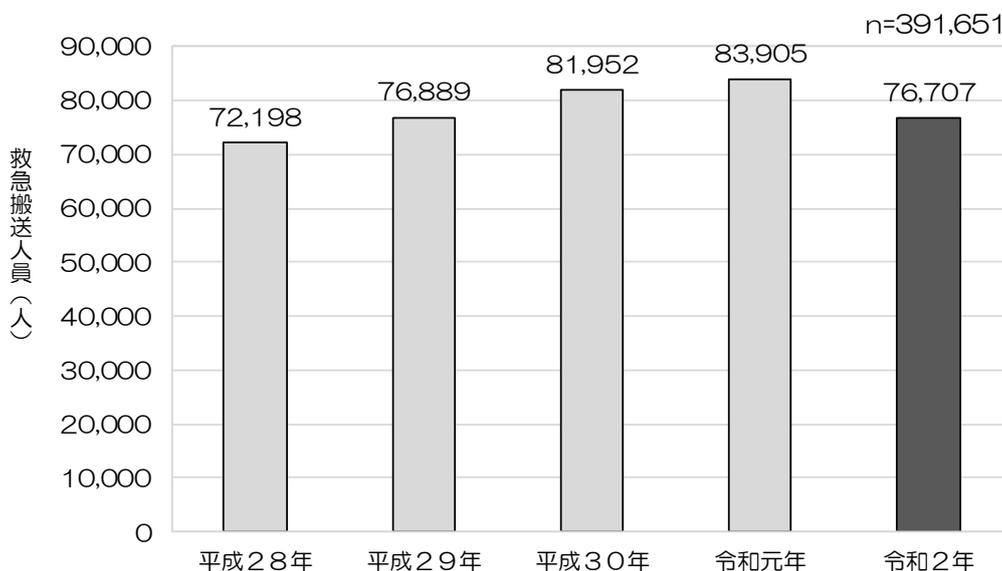


図3-23 年別の救急搬送人員

イ 初診時程度別搬送人員

高齢者は、入院を必要とする中等症以上となる割合が高く、4割以上となっています（図3-24）。

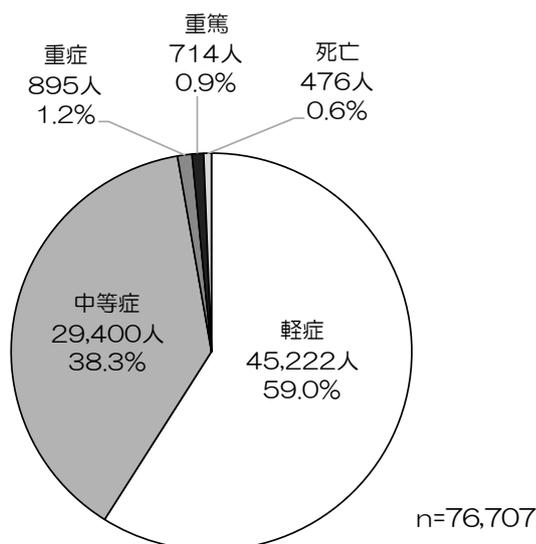


図3-24 初診時程度別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所での事故が6割を超え、道路・交通施設での事故と合わせると9割以上を占めています（図3-25）。

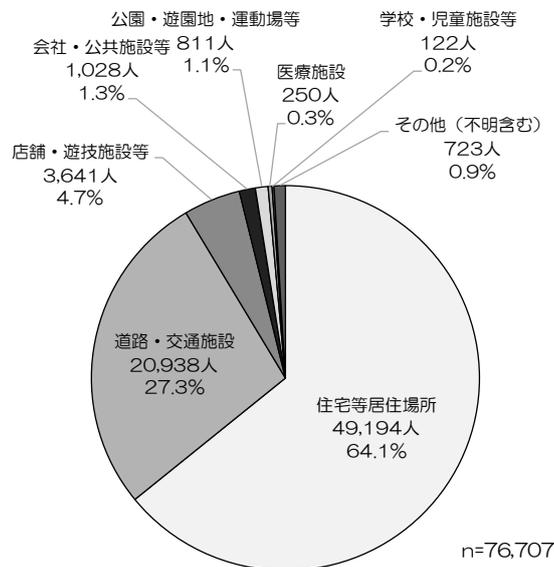
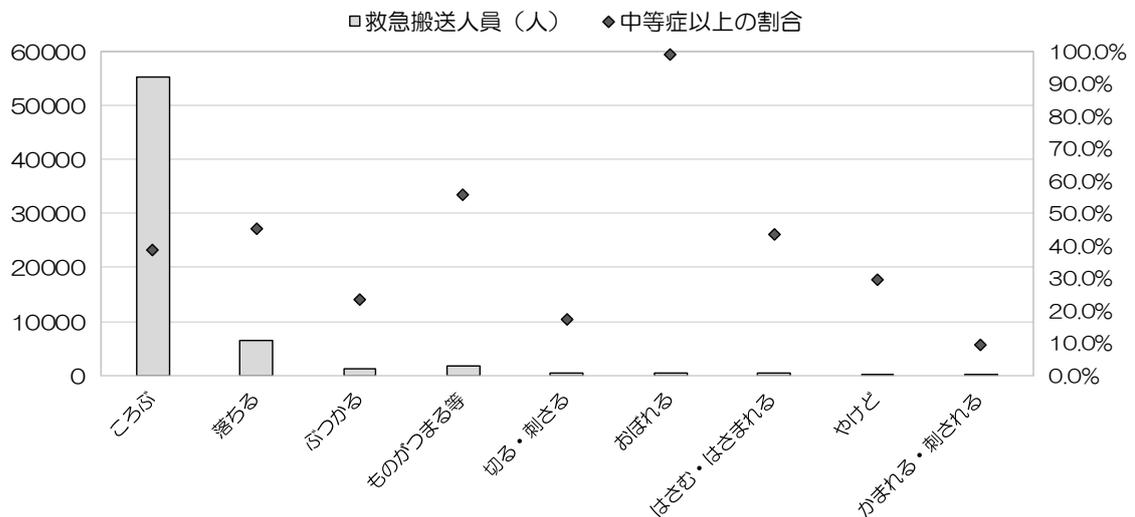


図3-25 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

65歳以上では、「おぼれる」事故は、99.1%が中等症以上と最も高く、「ころぶ」事故、「落ちる」事故、「ものがつまる等」の事故、「はさむ・はさまれる」事故は3割以上が中等症以上となっており、高齢者は他の年代と比べ、重症化しやすくなっています（図3-26）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	切る・刺さる	おぼれる	はさむ・はさまれる	やけど	かまれる・刺さる
救急搬送人員	55,183	6,552	1,317	1,610	532	454	340	217	184
中等症以上の割合	38.8%	45.5%	23.6%	56.0%	17.3%	99.1%	43.5%	29.5%	9.2%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-26 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

65歳以上では、「ころぶ」事故が段差や階段、自転車で多く発生しています。また、「落ちる」事故は、階段、ベッド、椅子が多くなっており、「おぼれる」事故は、そのほとんどが浴槽で発生しています（表8）。

表8 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものが つまる等	切る・ 刺さる	おぼれる	はさむ・ はさまれる	やけど	かまれる・ 刺される
1位	段差	階段	その他の家具	食物	ナイフ	浴槽	手動ドア	ヤカン	動物等
	2,625人	2,849人	115人	393人	165人	428人	29人	31人	101人
2位	階段	ベッド	人	おかゆ類	電気のごぎり	河川	ベッド	熱湯	虫
	1,638人	1,111人	106人	109人	75人	22人	27人	29人	78人
3位	自転車	椅子	柱	包み・袋	はさみ・爪切り	プール 海	プレス機	鍋	
	848人	484人	90人	95人	35人		18人	27人	
4位	椅子	脚立・踏み台・足場	壁・天井	ご飯	食器類	各1人	その他の機械	天ぷら油	
	637人	353人	79人	87人	28人		12人	17人	
5位	エスカレーター	エスカレーター	手動ドア	入れ歯によるもの	スライサー		フォークリフト	ポット・魔法瓶	
	544人	200人	77人	83人	21人		10人	16人	

※その他の家具とは、棚、タンス、ロッカー等

※その他の機械とは、かく拌機、ロール機、キャタピラ等

カ 65歳以上（高齢者）の事故事例

【事例1 餅を詰まらせる】

自宅で柏餅を食べていた際に、喉に詰まらせ意識がなくなった（80代 重篤）。

【事故防止ポイント】

高齢者の「ものがつまる等」の事故は5割以上が中等症以上と診断されています。

食べ物は小さく切ってよく噛んで食べましょう。



【事例2 包みの誤飲】

薬を服用する際に、誤って薬のパッケージごと飲んでしまった（70代 中等症）。

【事故防止ポイント】

高齢者が薬を服用する際は、パッケージを飲み込まないように、適時様子を見るなど注意を払いましょう。

【事例3 ころぶ事故】

自宅の廊下で足を滑らせて転倒し、大腿部を受傷した（90代 中等症）。

【事故防止ポイント】

高齢者のころぶ事故の約4割が中等症以上と診断されています。

自宅内では整理整頓を心がけ、家具や敷物による転倒を防止しましょう。

【事例4 脚立から落ちる】

脚立に上り蛍光灯を交換しようとして、足を滑らせて転落し受傷した（70代 中等症）。

【事故防止ポイント】

脚立や踏み台に上がって作業や清掃をしていて転落する事故が多く発生しています。

- 脚立の天板の上、脚立・はしごの上方に乗って作業しないようにしましょう。
- 安定した足場を選び、バランスを崩さないようにしましょう。
- 使用時は補助者に支えてもらいましょう。
- 年齢や個々の体力を勘案し、無理な作業は控えましょう。

事業者の場合、法令では、2m以上の高所作業については、墜落等の危険を防止する措置（墜落制止用器具等の使用）をとることが事業者には義務付けられ、労働者も指示に従う義務があります。



② 65歳～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）

ア 年別搬送人員

前期高齢者と後期高齢者の救急搬送人員は増加傾向にありましたが、令和2年はどちらも減少しています（図3-27、図3-28）。

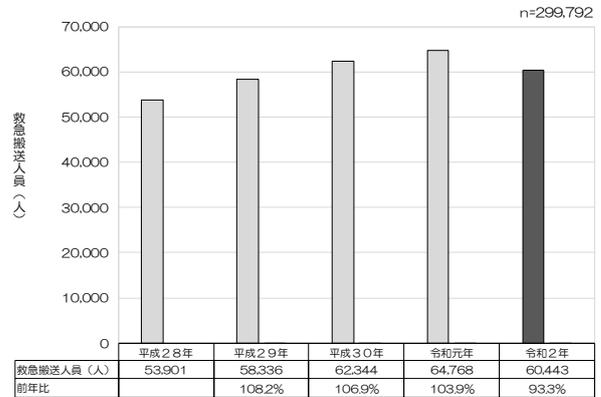
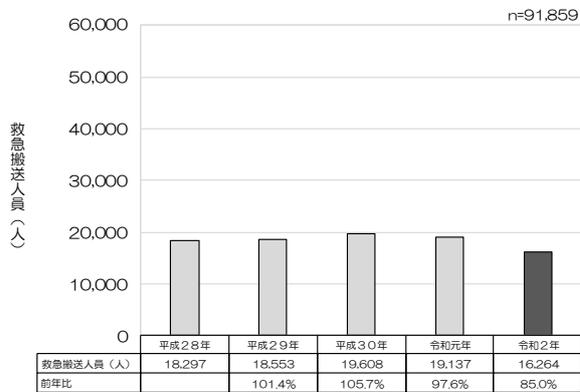


図3-27 年別の救急搬送人員（前期高齢者）

図3-28 年別の救急搬送人員（後期高齢者）

イ 初診時程度別搬送人員

初診時程度別に見ると、前期高齢者では中等症以上の割合が約3割ですが、後期高齢者になると、さらに増加して4割以上を占めています（図3-29、図3-30）。

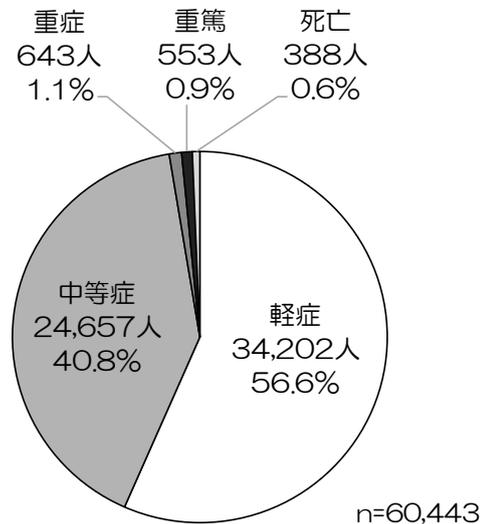
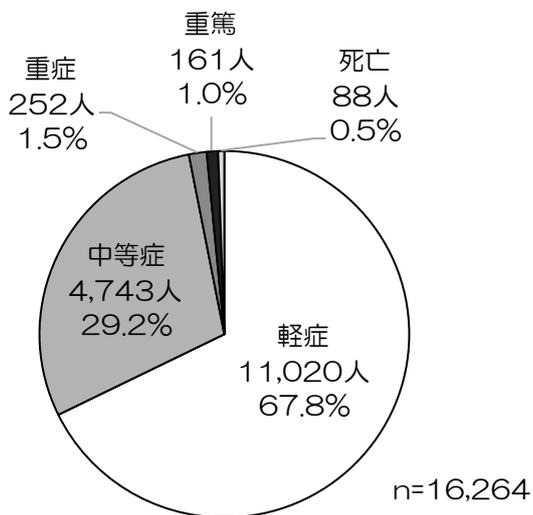


図3-29 初診時程度別（前期高齢者）

図3-30 初診時程度別（後期高齢者）

ウ 発生場所別搬送人員

前期高齢者では住宅等居住場所での事故が最も多く約5割を占めています。次いで多いのが道路・交通施設で約4割を占めています。一方で、後期高齢者になると住宅等居住場所での割合が増加し、約7割を占めています（図3-31、図3-32）。

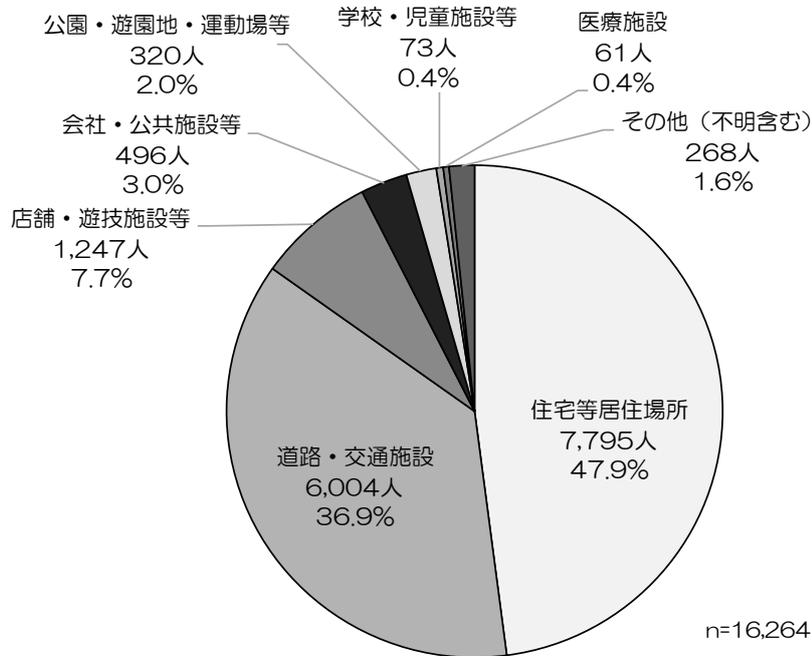


図3-31 発生場所別の救急搬送人員（前期高齢者）

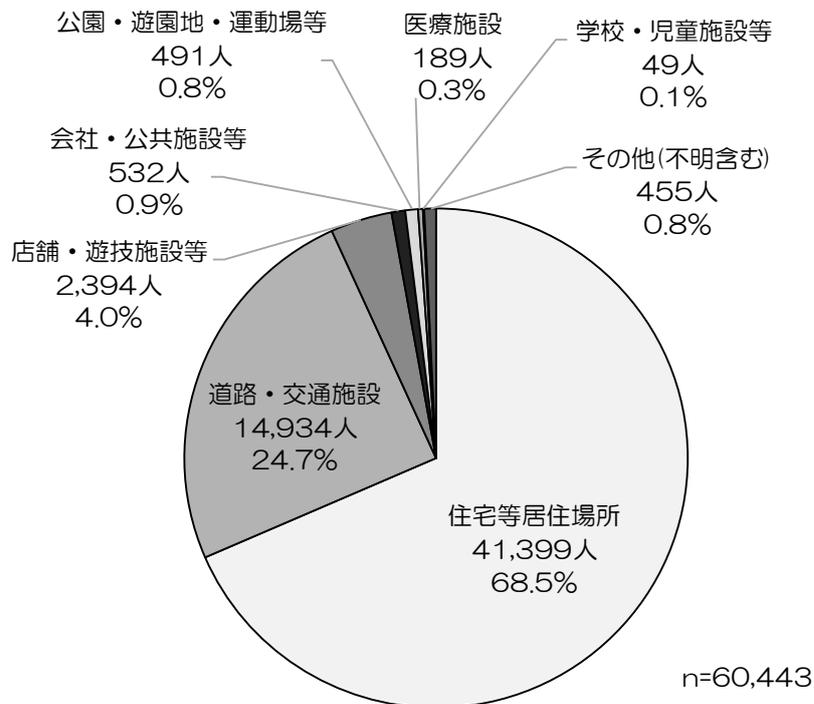
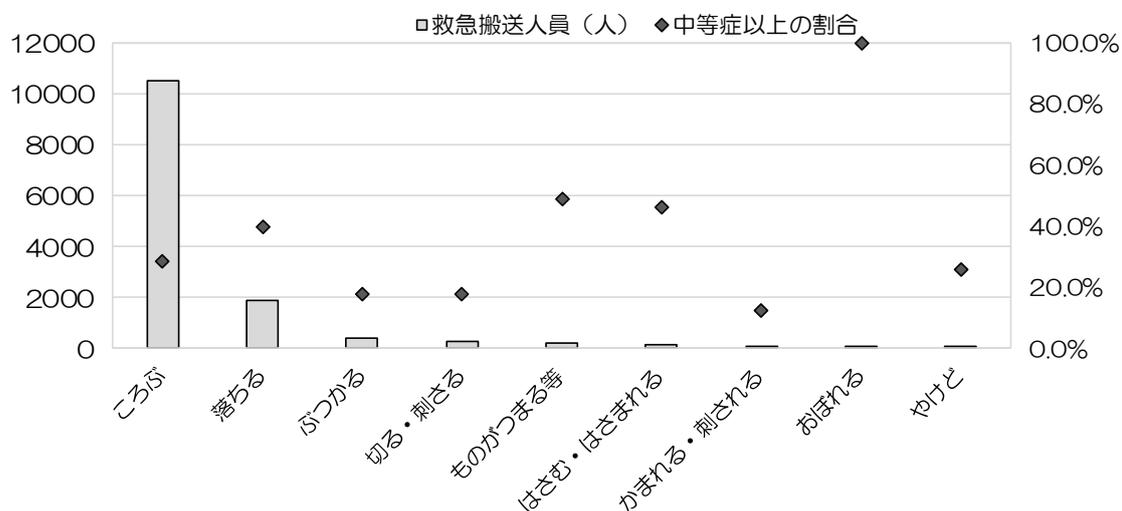


図3-32 発生場所別の救急搬送人員（後期高齢者）

エ 事故種別ごとの搬送人員

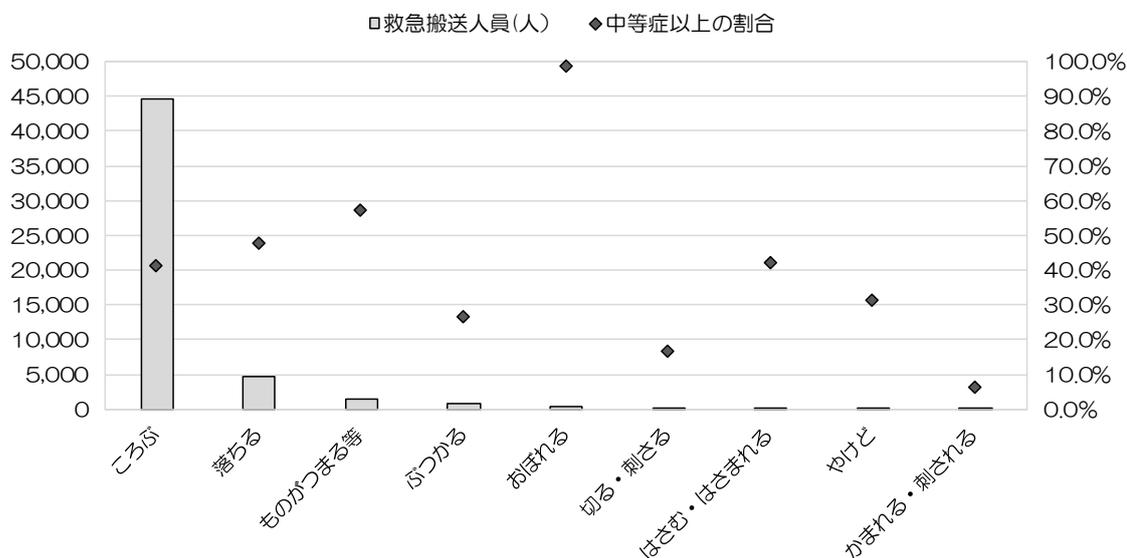
「ころぶ」、「落ちる」、「ものがつまる等」、「ぶつかる」、「やけど」の事故では前期高齢者に比べて後期高齢者の方が中等症以上の割合が多く、重症化しやすくなっています（図3-33、図3-34）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	切る・刺さる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	おぼれる	やけど
救急搬送人員	10,503人	1,891人	431人	263人	235人	132人	88人	82人	74人
中等症以上の割合	28.8%	40.0%	17.6%	17.9%	48.9%	46.2%	12.5%	100.0%	25.7%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-33 事故種別ごとの救急搬送人員（前期高齢者）



事故種別	ころぶ	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	おぼれる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	やけど	かまれる・刺される
救急搬送人員	44,680人	4,661人	1,375人	886人	372人	269人	208人	143人	96人
中等症以上の割合	41.2%	47.7%	57.2%	26.5%	98.9%	16.7%	42.3%	31.5%	6.3%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-34 事故種別ごとの救急搬送人員（後期高齢者）

2. 年齢層別での比較

(1) 年別搬送人員での比較

過去5年間の救急搬送人員を比較すると、令和2年は令和元年と比較してどの年代でも減少しています（図3-35から図3-44まで）。

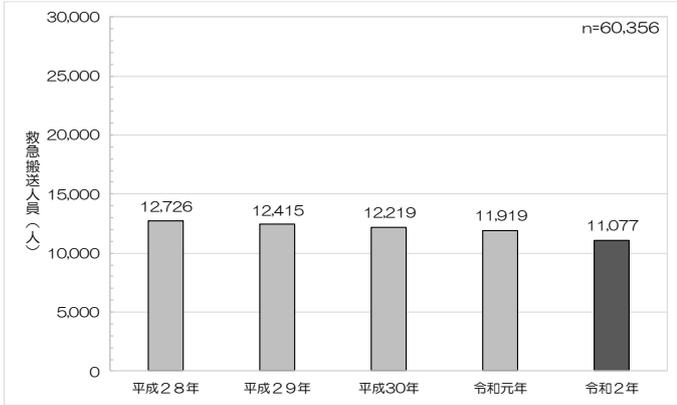


図3-35 9歳以下

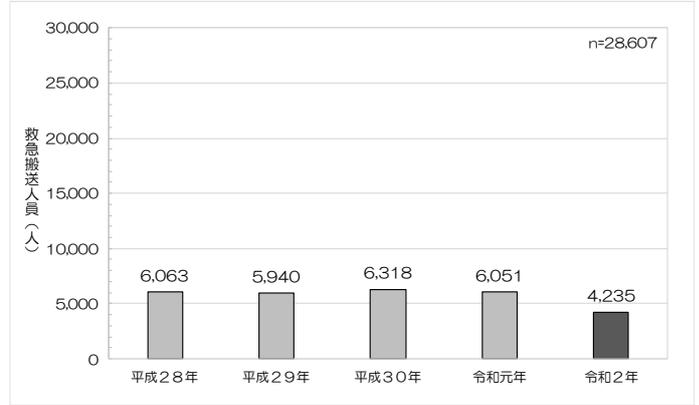


図3-36 10代

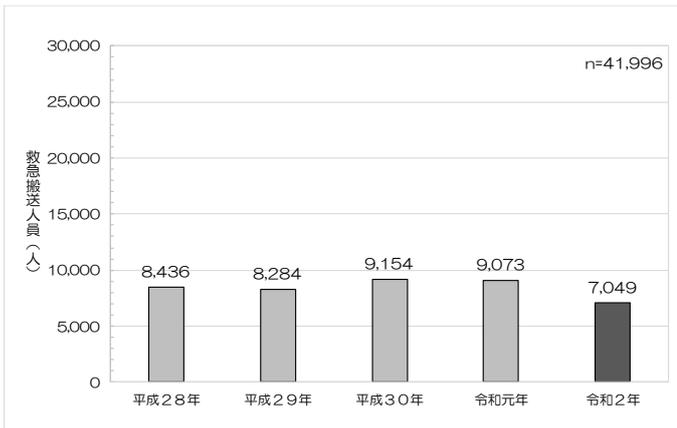


図3-37 20代

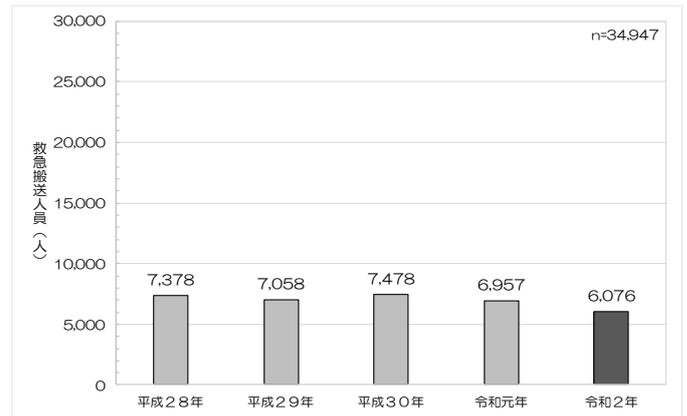


図3-38 30代

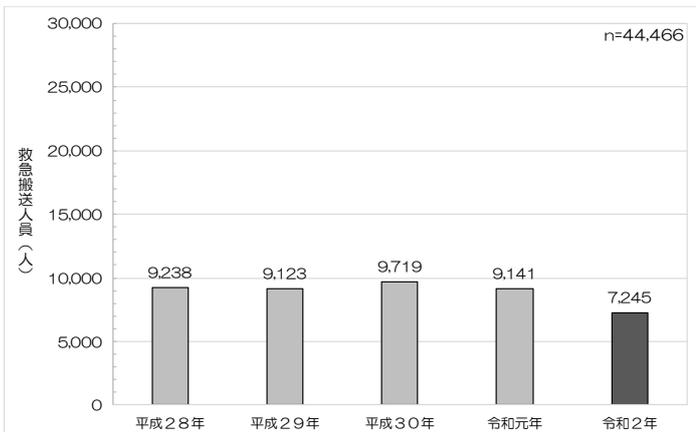


図3-39 40代

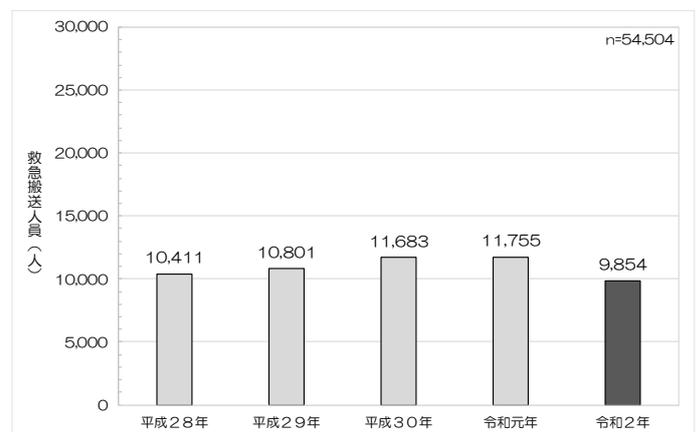


図3-40 50代

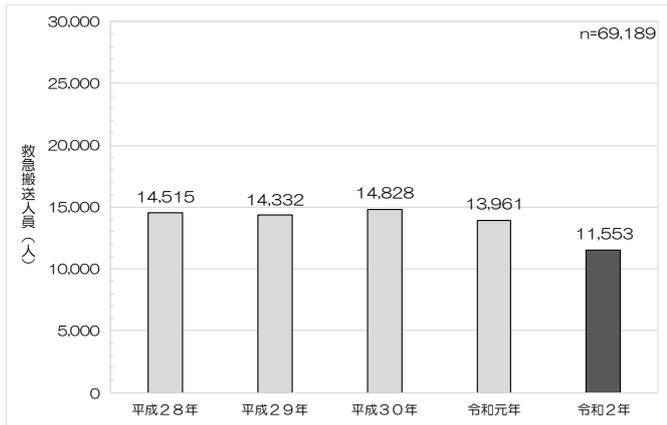


図3-41 60代

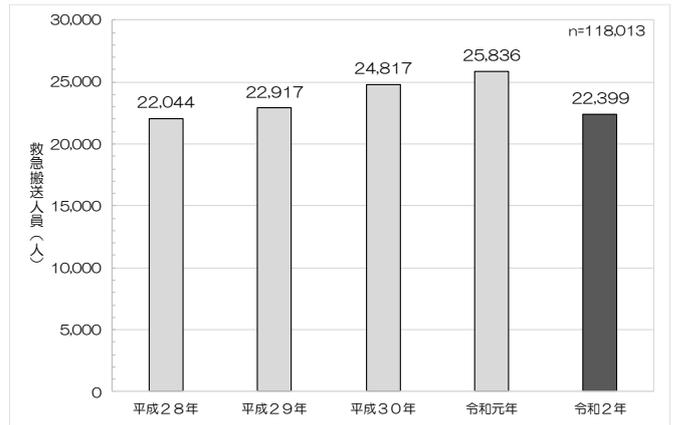


図3-42 70代

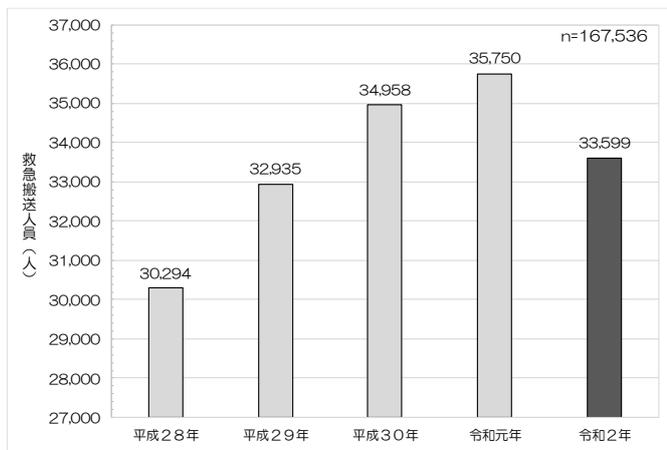


図3-43 80代

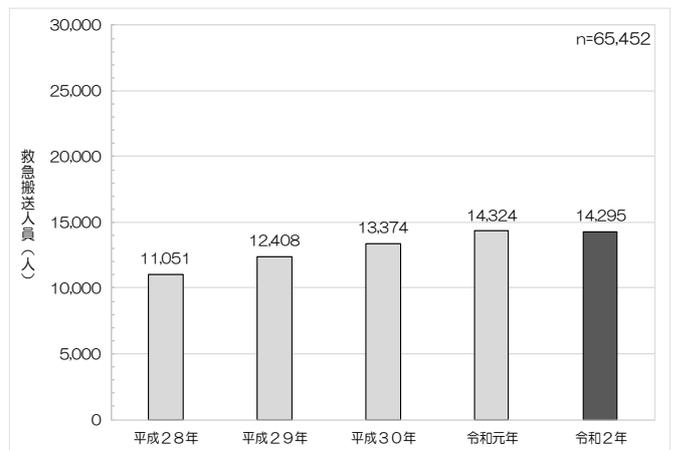


図3-44 90歳以上

(2) 事故種別（その他、不明を除く）ごとの比較

事故種別（その他、不明を除く）ごとに比較すると、「ころぶ」事故の割合は、50代から全体の6割以上を占めています。「落ちる」事故では9歳以下で約3割を占めています。「切る・刺さる」事故では20代と30代で1割以上を占めています。「ものがつまる等」の事故については、9歳以下では1割以上を占めています（図3-45から図3-54まで）。

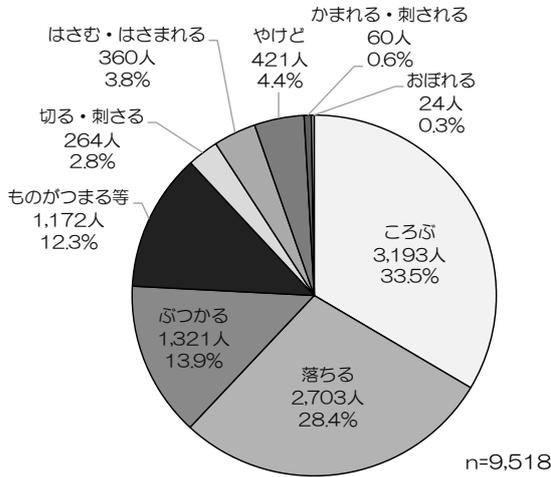


図3-45 9歳以下

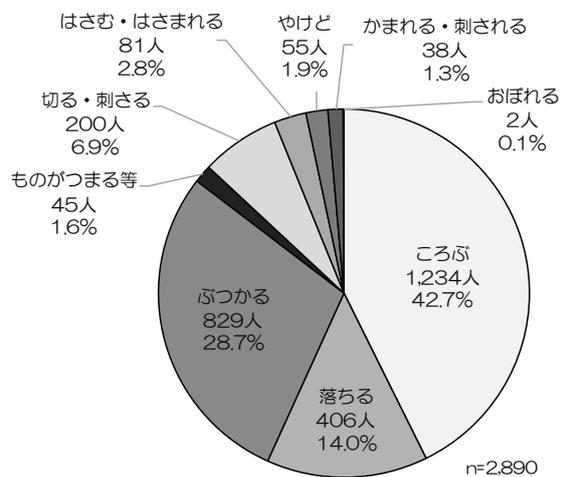


図3-46 10代

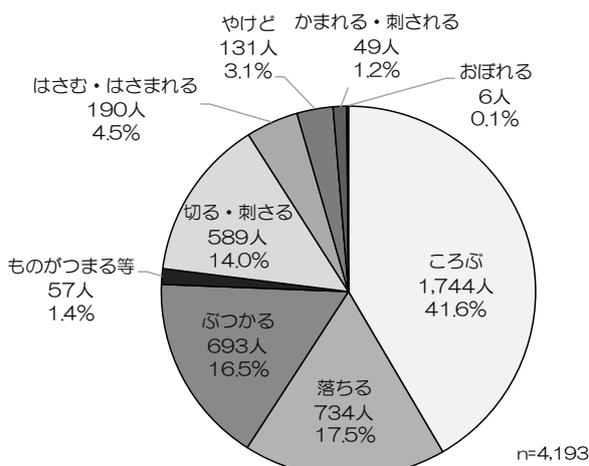


図3-47 20代

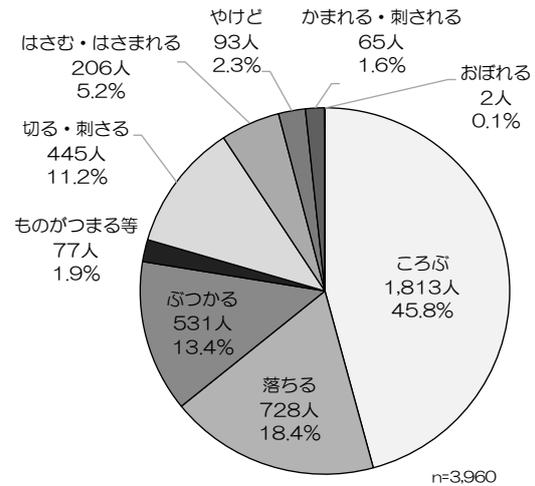


図3-48 30代

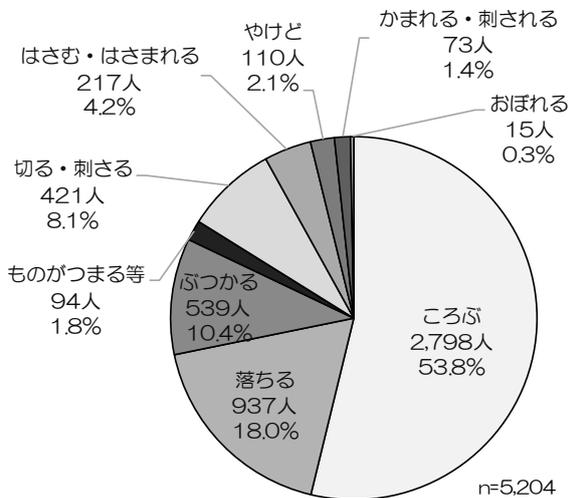


図3-49 40代

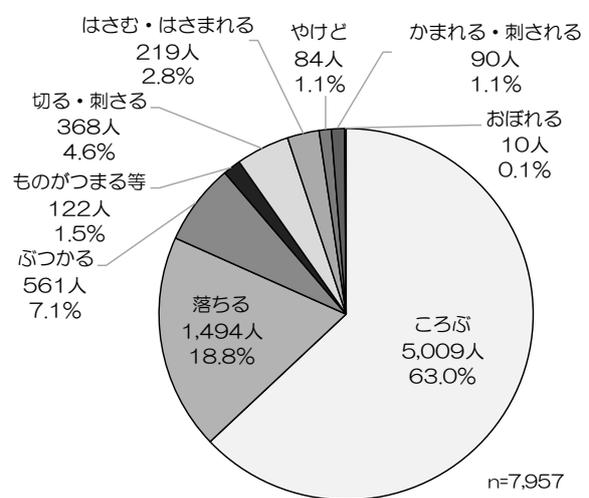


図3-50 50代

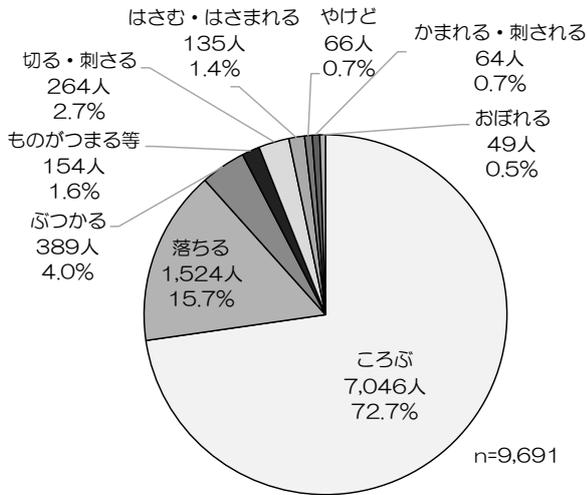


図3-51 60代

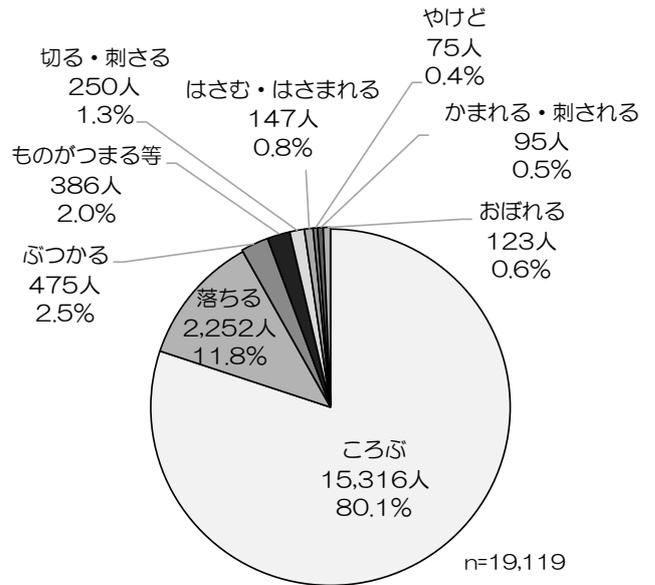


図3-52 70代

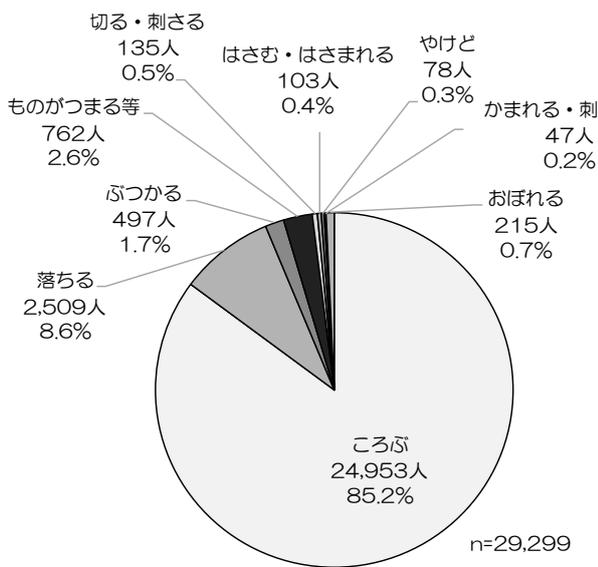


図3-53 80代

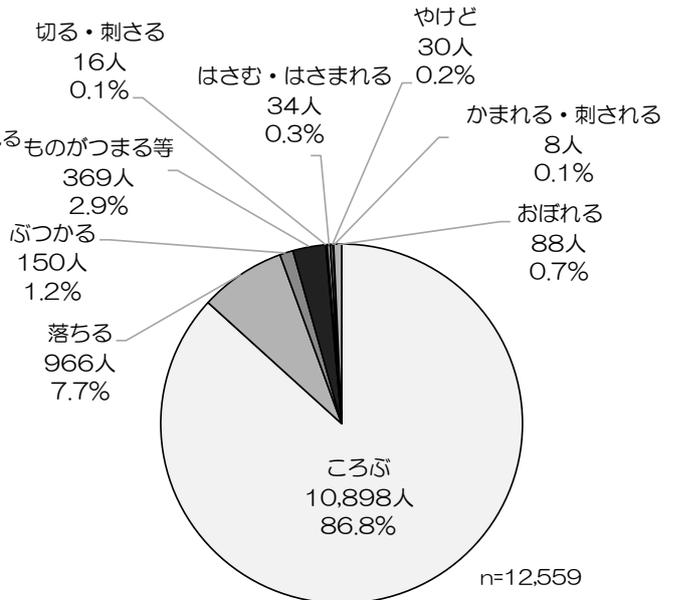


図3-54 90歳以上

(3) 時間帯別の比較

時間帯別に比較すると、9歳以下では16時から20時までの時間帯で800人以上が救急搬送されています。10代では日中が多くなっており、20代から50代までにかけては夜間に増加しています。60代では夜間に加えて、日中でも多く救急搬送されています。70代以上では夜間の救急搬送が減少し、日中に多く救急搬送されています（図3-55から図3-64まで）。

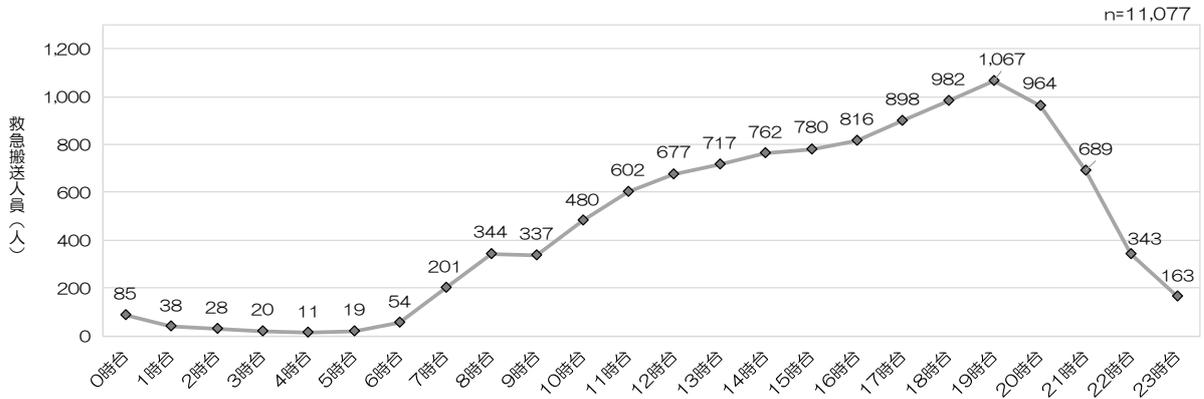


図3-55 9歳以下

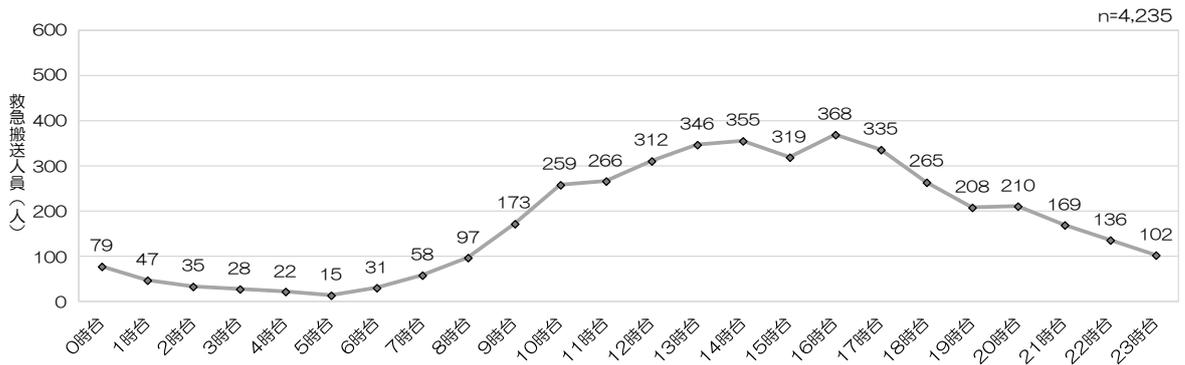


図3-56 10代

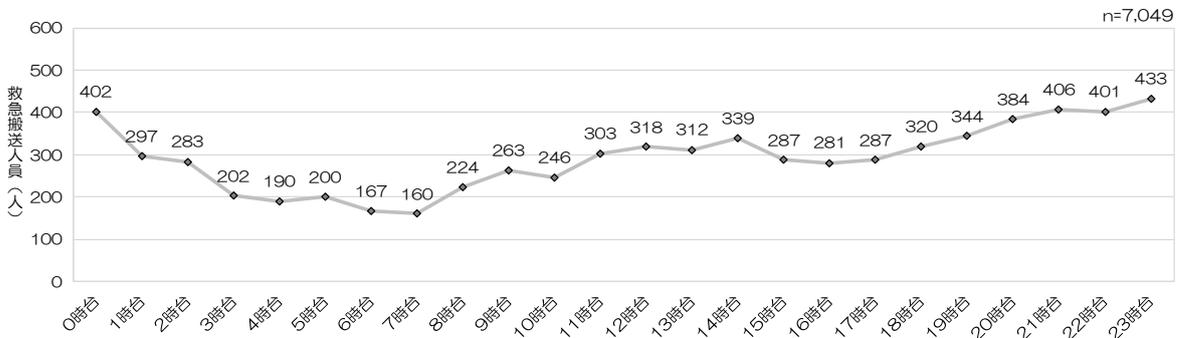


図3-57 20代

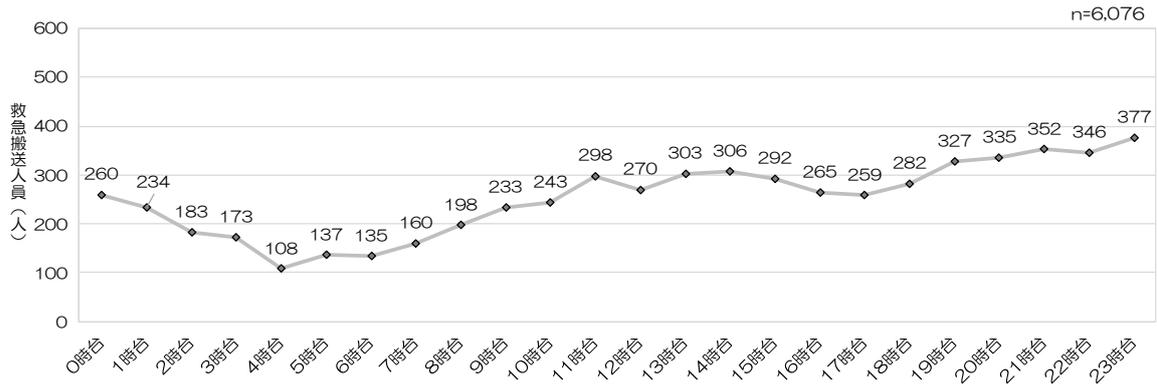


図3-58 30代

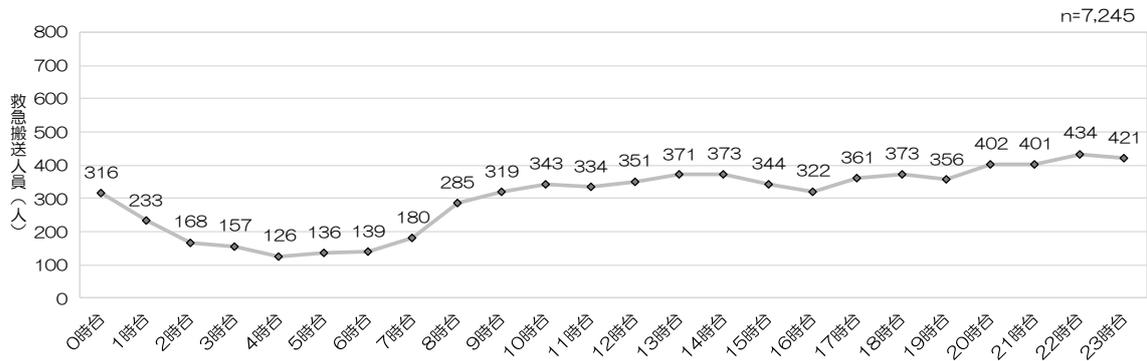


図3-59 40代

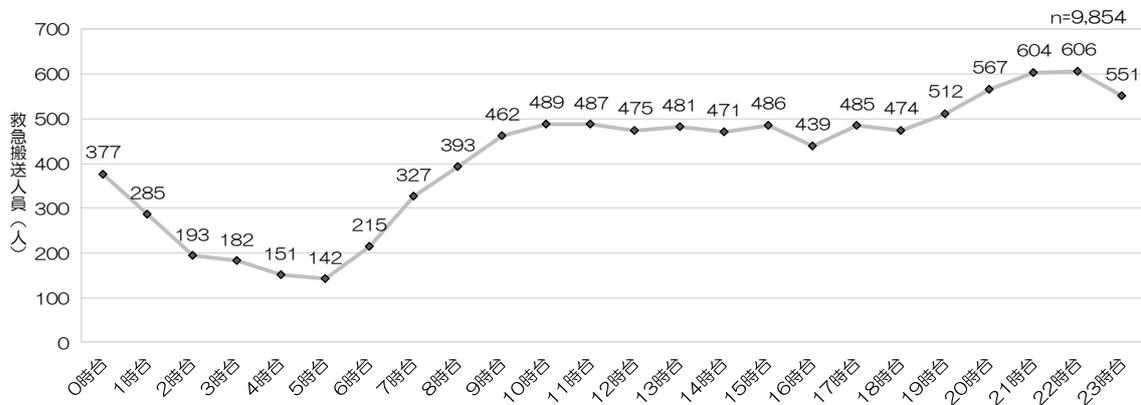


図3-60 50代

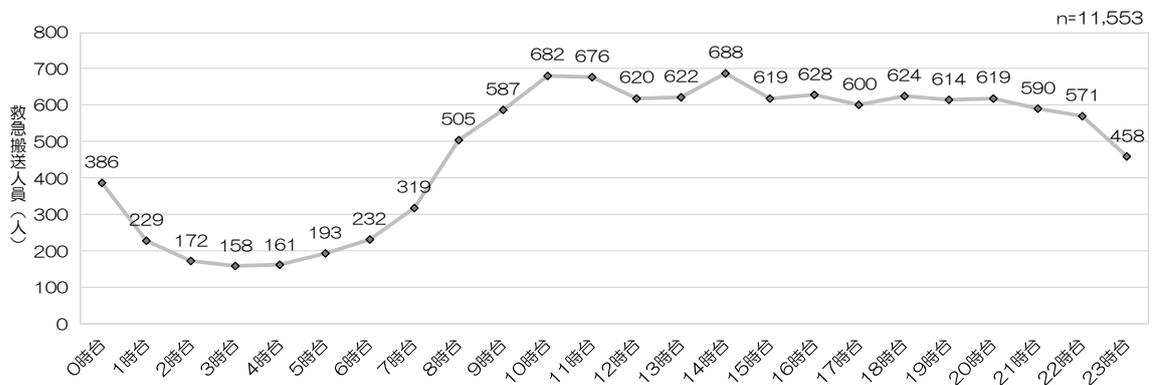


図3-61 60代

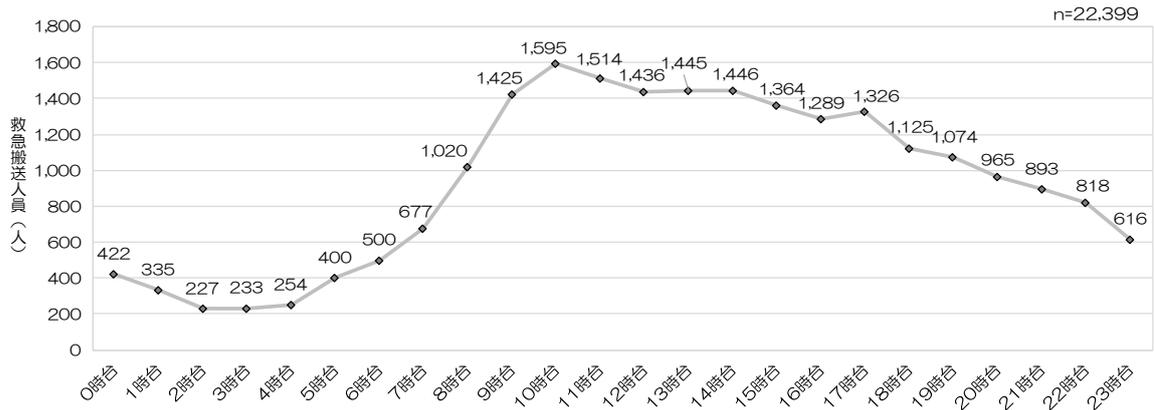


図3-62 70代

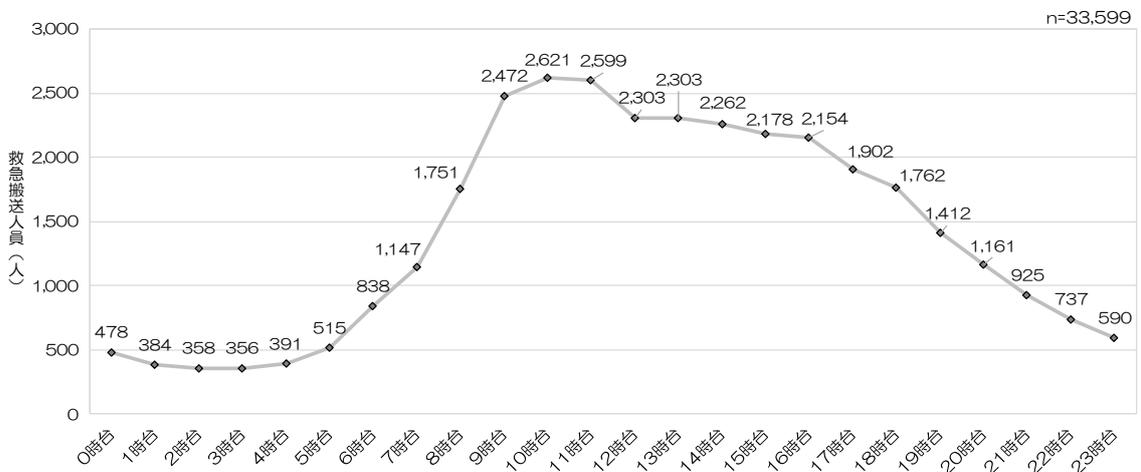


図3-63 80代

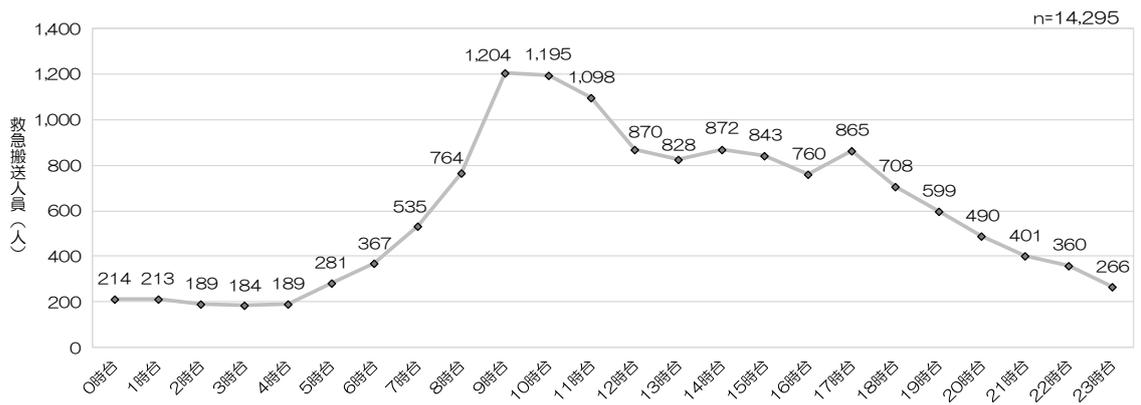


図3-64 90歳以上